

活動内容報告書

平成29年9月6日

稚内市議会議員 千葉一幸

活動等の名称	グリーンシード21例会 in 弟子屈
期 間	平成29年8月27日～平成29年8月28日
実施場所	弟子屈町
実施経費	<p style="text-align: center;">33320円</p> <p><input type="checkbox"/>調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/>研修費 <input type="checkbox"/>広報費 <input type="checkbox"/>広聴費 <input type="checkbox"/>要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/>会議費 <input type="checkbox"/>資料作成費 <input type="checkbox"/>資料購入費 <input type="checkbox"/>人件費 <input type="checkbox"/>事務所費 <input type="checkbox"/>その他</p>
活動等の概要	<ul style="list-style-type: none">・国立公園の保全と活用 講師：阿寒摩周国立公園事務所 河野 通治 氏・弟子屈の観光によるマチづくりで目指してきたもの 講師：山田 桂一郎 氏・てしかがえこまち推進協議会の取組について 講師：推進協議会事務局及び各部会長
備 考	

千葉一幸議員 弟子屈町 グリーンシード研修

旅行期間／平成29年8月27日～28日

旅行行程表

月 日	行 程	滞 在 地
8/23	稚内市 → 弟子屈町	弟子屈町
8/24	弟子屈町 → 稚内市	

旅費計算表

項 目	内 詳	金 額
自家用車	稚内 ⇄ 弟子屈(398km ※高速道路使用なし) 計 796km × 20円	15,920
日 当	@2,700 × 2日	5,400
宿泊料	@12,000 × 1日	12,000
合 計		33,320

グリーンシード21例会 in 弟子屈

平成29年8月26日

グリーンシード21例会が弟子屈にて行われ参加した。講演①は、国立公園の保全と活用と題して阿寒摩周国立公園事務所 河野道治氏。阿寒摩周国立公園では、満喫してもらうために3つのキーワードを設定。1. 原生的な自然で過ごす「上質な時間」、2. 原生的な自然の保護を前提とした「新たな活用」、3. 「アイヌ文化」の体感。2020年に達成すべき目標として、訪日外国人利用者数15万人を目指すこと、国立公園及び周辺地域における旅行消費額の向上を目指すこととしています。5か所のビューポイントと公園全体の取り組みをしていること、アクセスルート・プロモーションに関する取り組みを関係者間にて目的達成のため取り組みをしてきている。講演②、観光立国の正体と題して、山田桂一郎氏。講演には観光庁観光地域政策部 米村部長や、北海道運輸局観光部 小松部長他観光関係者が参加しての講演となる。稚内市へも来て頂いたことがある講師の観光カリスマでもある山田氏。スイスのツェルマットが行っている観光施策を例にとり弟子屈に置き換えて講義をした。DMOやDMCにも言及し、その地域での観光振興策はその地域内にての物になること、よそ者の視点を重視し、誰が取り組むのか、関係者が当事者意識を持ち、評論家に留まらず活動していくことが求められている、地域が観光にて稼げる環境整備に関係者一丸となって取り組む姿勢が重要であると認識を示していた。弟子屈町においても人口減少による人材確保の困難がある中、エコツーリズムをマチ全体で推進していくことによる観光施策が一つひとつ具現化していくことが成功事例として話されていた。講演③、てしかがえこまち推進協議会の取組についてと題し、事務局及び各部会長より取り組みを聞かせていただく。エコツーリズムとは「地域ならではの特色」を生かし環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのことで、この考え方を実践するツアーの運営エコツアーに取り組んでいる。エコツーリズムを推進するために定める地域の指針を作り国の認定を受け、北海道では初めて2016年11月に「全体構想認定地域」となっています。全体構想には、弟子屈町の自然観光資源は何か定義し、エコツアーで守るべきルールを定め、自然環境のモニタリングを行うことを定めていました。稚内市においても、日本最北端を生かしたエコツーリズム全体構想を定義し、観光振興での関係者間が一丸となるような取り組みを推進していくことが有用ではないかと考えらされました。これから充実した観光振興が、地域において外貨を獲得する稼げる仕組みづくり、雇用の創出・確保、持続可能なマチづくりには欠かせないものだと改めて思えた講義になった。

稚内市議会議員 千葉一幸

グリーンシード21例会(交流会・研究会)in弟子屈

【交流会】

- 1 日 時 平成29年8月26日(土) 18:00~20:00
- 2 場 所 川湯観光ホテル「スズラン」
(弟子屈町川湯温泉1-2-30)

【研究会】

- 1 日 時 平成29年8月27日(日) 9:30~15:30
- 2 場 所 川湯観光ホテル 別館2F「ジュピター」
(弟子屈町川湯温泉1-2-30)

3 講演内容

第1部 9:30~11:00
「国立公園の保全と活用～温泉満喫プロジェクトの取組などから」
講師:阿寒摩周国立公園事務所 河野 通治 氏

第2部 11:00~12:30

「観光立国の正体～てしかがの観光によるまちづくりで目指してきたもの」
講師:山田 桂一郎 氏

【昼食会】

第3部 13:30~15:30
「てしかがえこまち推進協議会の取組について」
講師:推進協議会事務局及び各部会長

あかんこう

阿寒国立公園満喫プロジェクト

「火山と森と湖」が織りなす原生的な自然の世界を堪能！



今なお活発な火山、麓に広がる深い森、個性豊かな湖

そこに息づく動植物、勇き出る温泉、アイヌの文化

自然の恵みと伝統文化に彩られた阿寒国立公園

阿寒国立公園を満喫していただくための **3つのキーワード**

1 原生的な自然で過ごす「上質な時間」

眺望や居心地のよい展望施設、宿泊施設、カフェでの滞在、それぞれ特色の異なる温泉での保養など、原生的な自然の魅力を実感しながら上質な時間を過ごす。

2 原生的な自然の保護を前提とした「新たな活用」

カヌーやトレッキング、バードウォッチングなど、原生的な自然への新たなアプローチも含めたローインパクトなアクティビティを通じ、自然の雄大さやパワー、生きもののたくましさに直接ふれる。

3 「アイヌ文化」の体感

古くから伝わるアイヌの祭事や伝統文化など、我が国の先住民族であるアイヌの文化を体感する。



2020年に達成すべき目標

5箇所のビュー・ポイント

*「阿寒湖周辺公園整備プロジェクトステップアッププログラム2020」の目標に沿った計画、実施とその中間

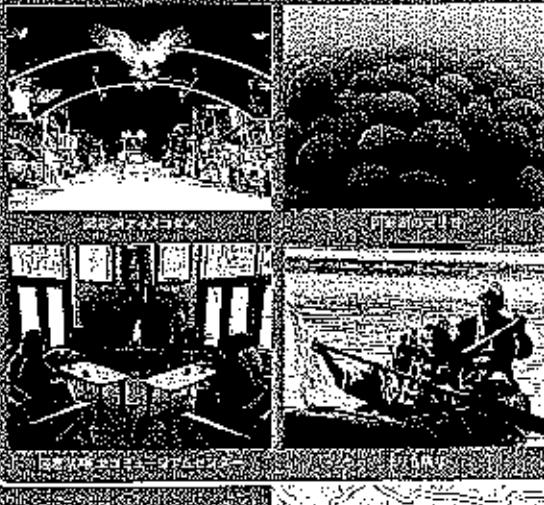
公園全体の取組

- 阿寒摩周国立公園(仮称)への名称変更
- 地域の魅力を生かしたロングトレイルやサイクリングロードの設定
- 統一的なデザインによる多言語の解説看板や標識の設置など



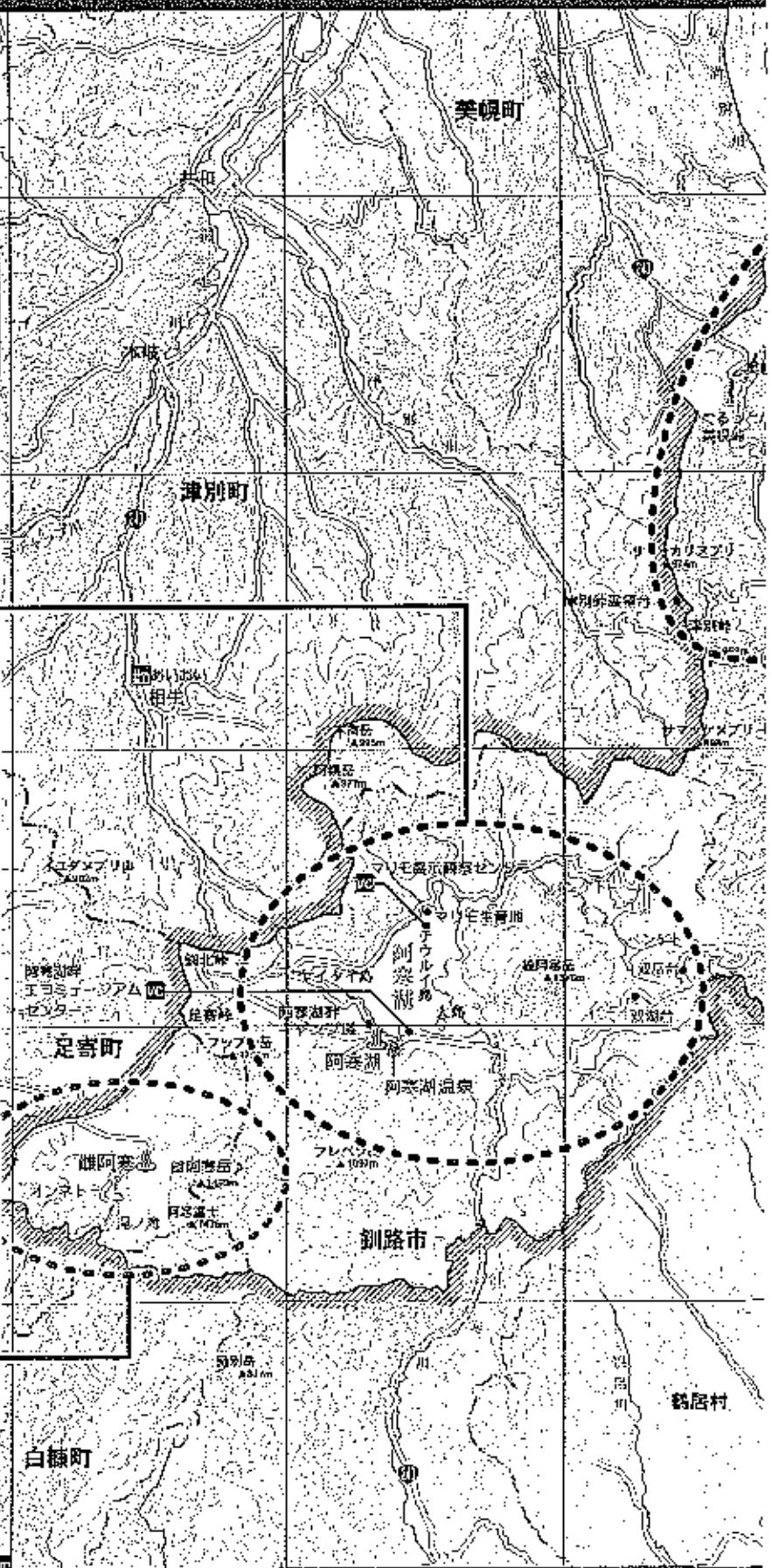
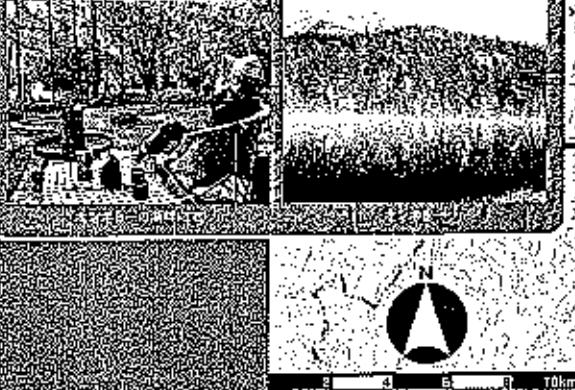
阿寒湖

- 富裕層をターゲットとした宿泊施設の誘致
- マリモ観察カットツアーや大空へのカヌーツアー、アイヌの思想・精神に沿ったブレイブツアーやアイスコタンの魅力向上を含めた四季湖温泉街の振興改善
- 新たな魅力地点につながる町内湖畔沿いの歩道の新設、阿寒湖コミュニケーションセンターの再整備など



オシンネットー・唯阿寒岳

- オシンネットー・唯阿寒岳の開拓
- オシンネットー・唯阿寒岳温泉街の整備

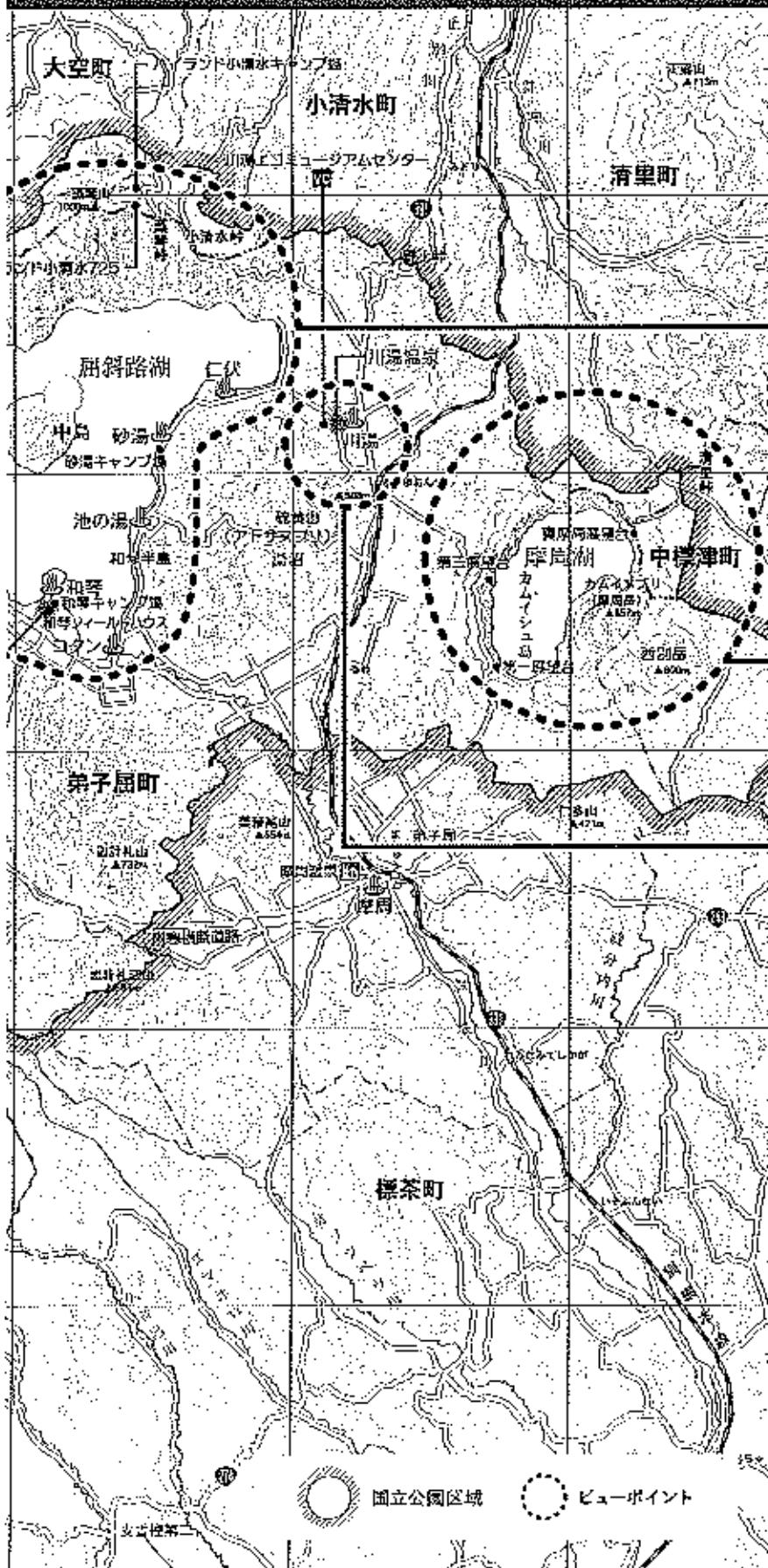


阿寒国立公園の訪日外国人利用者数15万人を目指します。

阿寒国立公園及び周辺地域における旅行消費額の向上を目指します。

と公園全体での取組

かかり、かつ幅広い主体による官民的な連携が取扱われる結果、「ビューポイント（新規接点作り）として位置しています。



屈斜路湖

- 実現性の高いツアーラインへのカヌーツアー
- アイヌの思想・精神に沿ったプログラム

阿寒湖畔施設地区や支樺岳周辺の両立性



摩周湖

- 内周筋自転車道へのカフェの併設
- 内周筋自転車道・摩周湖自転車道・摩周湖自転車道の再生



川湯温泉・硫黄山

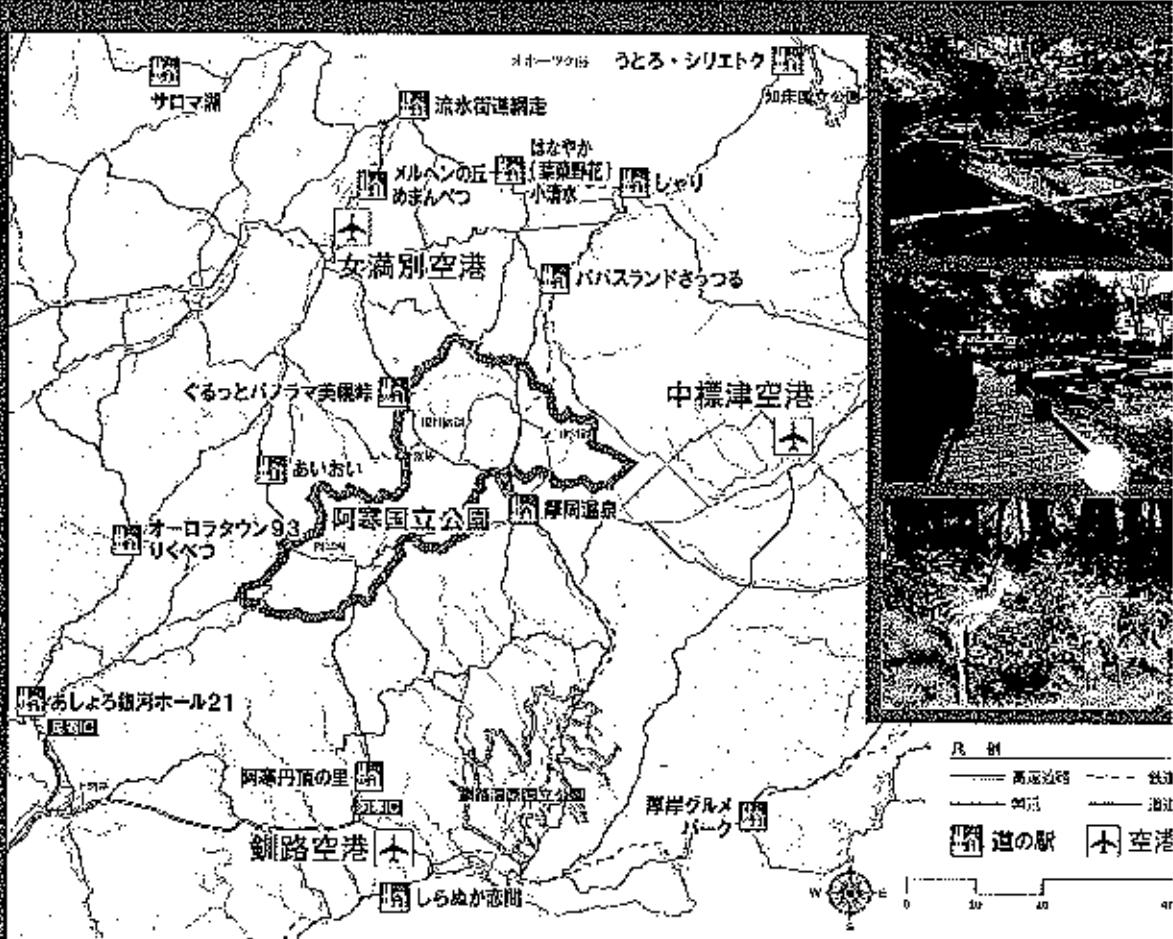
- 自然の中における温泉街をコンセプトにして川湯温泉の再生
- 川湯温泉と硫黄山周辺の両立アプローチ
- 川湯温泉にてサウナセンターの新設



阿寒国立公園

アクセスルートに関する取組

- 3つの空港(釧路空港、女満別空港、中標津空港)から阿寒国立公園までのアクセスについて、二次交通の充実を含めた誘導策を検討します。
- 北海道の玄関口である新千歳空港からの誘導策についても検討します。
- タンチョウの観察など、国立公園までのアクセスで体験できる魅力の情報発信を進めます。



プロモーションに関する取組

- 阿寒国立公園でインバウンドの増加を図るためのプロモーション戦略を策定します。
- 阿寒国立公園をPRするための動画を作製し、海外メディアなどを活用したプロモーションを行います。
- 広域観光周遊ルート事業やビジット・ジャパン事業、道東エリアの国立公園(知床、釧路湿原)などと連携し、具体的なプロモーションを進めます。



阿寒国立公園開発プロジェクト地域協議会



環境省釧路自然環境事務所

Tel: 0164-32-7500

北海道環境生活創生物多様性保全課

Tel: 060-8688 北海道札幌市中央区北3条西6丁目 TEL: 011-211-4111(内線24-353)

参考

阿寒国立公園開発プロジェクトアップアッププログラム 2020 http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/pre_2015/post_23.html

阿寒国立公園 <http://www.env.go.jp/park/akan/>

発行: 2017年2月

グリーンシード21弟子屈例会御一行様 日程表

日 次	日 付	時 間	行 程
1日目 8月26日 (土)		15:30	摩周駅集合 摩周駅駐車場使用 新そば祭り 会場：JA摩周湖Aコープ店前駐車場 摩周駅より徒歩5分
		16:50	摩周駅(発) メンバーの車に分乗してホテルへ
		17:20	川湯観光ホテル到着
		18:00	ホテルにて懇親会 夕食会場：スズラン 18:00～ オプショナルツアー（摩周湖星紀行）ご参加のお客様
			ロビー20:20集合
		20:30	ホテル(発) 20:30
		22:00	ホテル(着) 20:20
			オプショナルツアー（摩周・屏斜路雲海ツアー）ご参加のお客様
2日目 8月27日 (日)			ロビー04:50集合
		05:00	ホテル(発) 05:00
		06:30	ホテル(着) 06:30 各自ホテルにて朝食 朝食会場：シラカバ 07:00～
			会議所：別館2Fラピュタ 09:30～
		09:30	講義1：テーマ：国立公園の保全と活用～阿寒摩周国立公園 満喫プロジェクトの取組
			講師：阿寒摩周国立公園管理事務所 所長 河野 通治様
		11:00	講義2：テーマ：観光立国の正体～てしかがの観光による まちづくりで目指してきたもの
			講師：山田 桂一郎様
		13:30	昼食 昼食会場：スズラン 12:30～13:20 講義3：テーマ：てしかがえこまち推進協議会の取組について
			講師：推進協議会事務局及び各部会長様
		15:30	閉会

ホテル名：川湯観光ホテル

住所：川上郡弟子屈町川湯温泉1-2-30

電話：015-483-2121

FAX:015-483-3244

解説資料

てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想について

エコツーリズムとは、「地域ならではの特色」を生かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのこと。

「地域ならではの特色」には、その土地ならではの自然環境や、歴史文化などが挙げられます。旅行者が、自然の成り立ちや歴史、伝承されてきた文化などを体験しながら学ぶ「エコツアー」に参加することで、その地域の資源を尊重し、守っていくことにつながる「環境と経済の好循環」が期待されます。

エコツーリズムの実現のためには、一部の観光事業者だけではなく、地元住民や地域のさまざまな産業を取り込み、地域一丸となって推進していく必要があります。



推進のために大切なのは、「環境」+「観光」+「地域」

エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーのこと。

「自然体験型」のツアーばかりがエコツアーと思われがちですが、エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーをすべて「エコツアー」と言います。例えば…

- ・国立公園やその周辺でのトレッキングツアーやキャンプツアーア
- ・野鳥や星空の観察会
- ・歴史や文化を知るための学習
- ・外来種の駆除ボランティア
- ・畑での農作業体験

など、全国にはさまざまなエコツアーがあります。



弟子屈町にも既にカヌーやトレッキング、星空観察など
地域資源を生かしたいろいろなエコツアーがありますね。

「エコツーリズムを推進するために定める地域の指針」を指します。
指針を作り国の認定を受けると、「全体構想認定地域」になります。

エコツーリズムに関する機関を組織し、その地域として全体構想を策定すると、国（環境省）の認定を受けることができます。弟子屈町でも、てしかがえこまち推進協議会・エコツーリズム推進部会を中心に、地域として目指す方向や運用の方針について検討を重ねた結果、全体構想をとりまとめました。2016年11月に環境省より正式に認定を受け、全国で8番目（北海道では初めて）の認定地域になりました。



関係者が共通の認識に基づき、エコツーリズムを推進するため
に策定するのが「全体構想」です。

全体構想を
策定すると…

弟子屈の自然資源をどのように保全し、活用していくのか、
考えるための体制が整った！

国から全体構想が認定されることにより、以下のようなメリットがあります。

- 地域資源の独自の保護ができるようになります（特定観光資源の指定）
- 場合によっては、立ち入り制限を行うことも可能になります
- 国などのPRにより、地域のブランド力が向上します
- エコツアーに係る運送法の規制緩和が受けられます



弟子屈町の自然を守ることが出来る体制が出来て、
地域のブランド力も向上するんですね。

「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」には、
たとえばこんなことが書かれています



弟子屈町の自然観光資源とは何か、をきちんと定義しています。

自然景観、動物、植物、魚類、地形・地質、伝統文化、史跡、施設など多岐にわたり、
ひとつひとつの項目を細かく記載しています。



エコツアーで守るべき基本的なルールを定めています。

ツアーアー実施事業者や、参加する旅行者が守るべきルールを定めています。たとえば、「不必要的動植物の採取や昆虫類の捕獲などを行わない」「ツアーアー実施者は安全管理につとめる」など。これらのルールは随時見直しを行うことが出来るとされ、状況に応じて条例制定などにつなげていくことも可能です。



自然環境のモニタリングを行うことが定められています。

自然環境の変化やその兆候をつかむため、モニタリングを行うことになっています。
対象は登山道や川などのほか、動物、植物、魚類、気象など項目は多岐にわたり、各々の
調査方法・頻度も定められています。

誰が主体で
運用を
担っていくの？

「てしかがえこまち推進協議会」が主体となり取り組みます。
協議会の中に運営委員会を設置し、3チームに分かれて活動します。

協議会内「エコツーリズム推進部会」の中に、「てしかがスタイルのエコツーリズム
推進全体構想運営委員会」を設置します。（※構成団体等は別紙参照）

運営委員会は、下記の3チームに分かれて具体的な取り組みを進めます。

- ①環境チーム…ルールに関する事、モニタリング、エコツアーアーなどが担当業務
- ②教育チーム…環境教育に関する事、人材育成などが担当業務
- ③広報チーム…エコツーリズムについての理解促進、ルールの浸透などが担当業務

始まったばかりの取り組みですが、試行錯誤しながら、弟子屈町の大好きな資源を守り、
後世に伝えていきましょう。

阿寒摩周国立公園名称変更記念

ONSEN ガストロノミーウォーキング in 川湯温泉

めぐる
Walk



たべる
Enjoy



つくる
Onsen

ONSEN ガストロノミーは
新しい旅のスタイルです

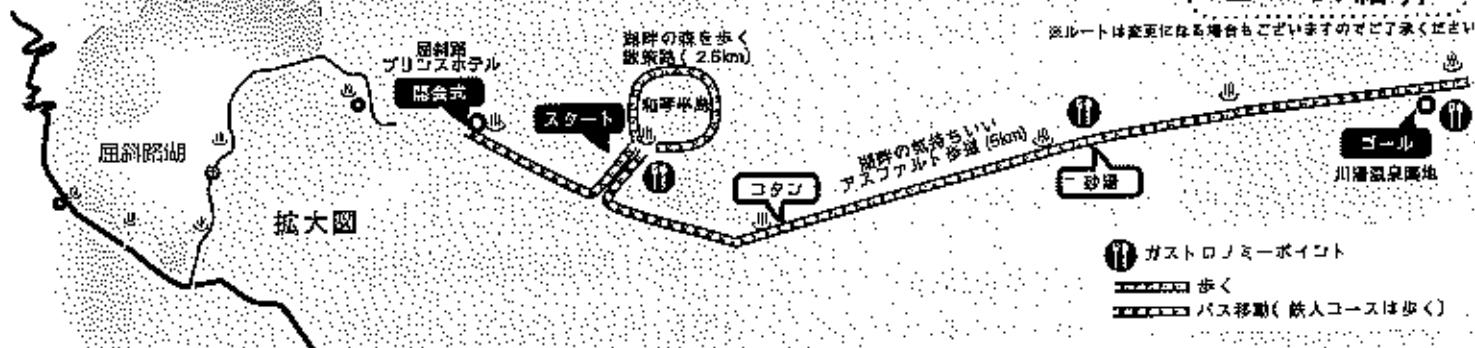
2017年

10月22日(日)

参加費 大人 3,000 円、小中学生 2,000 円

交流会「セセキベツのタベ」参加費 大人 5,000 円、小中学生 3,000 円

コース紹介



【主 催】(一社)摩周湖観光協会 【共 催】てしかがえこまち推進協議会 【特別協力】(一社)ONSEN ガストロノミーツーリズム推進機構 【協 賛】(株)AIRDO
【協 力】環境省 【後 援】弟子屈町、ANA、弟子屈町商工会、摩周湖農業協同組合、阿寒国立公園川湯地域運営協会

めぐる Walk

屈斜路湖畔の紅葉はまさにピーク。木漏れ日と紅葉、そして湖の美しいコントラストを楽しみながらのウォークです。

【前半 和琴半島】

一周2.5kmの散策路をゆっくり歩きましょう。半島の先端では大地の風を感じられる「オヤコツ地獄」が出迎えてくれます。



【後半 コタン～砂湯】

木々の間からちらちら見える屈斜路湖は、秋のこの時期とても温んで美しい青色。紅葉とのコントラストに心洗われる5kmのウォーク。



たべる Enjoy

食欲の秋。旬の食材をたっぷり使った弟子屈らしいメニューをお楽しみください。

美味しい旬の地場産食材を使用したフードメニューを、各提供箇所にてご用意しております。

- 各ガストロノミーポイント
- 交流会「セセキベツのタペ」※オプション



※写真はイメージです。

つかる Onsen



屈斜路温泉

塩分や炭酸ガスが豊富に含まれる、保湿効果やお肌の新陳代謝に効果抜群の温泉です。

【泉質】ナトリウム・カルシウム硫酸塩・塩化物泉(中性低アレルギー高温泉)

川湯温泉

硫黄山からわき出る温泉は強酸性。強い殺菌効果があるため、薬効成分がたっぷりの、美肌の湯でもあります。

【泉質】酸性・含硫酸・鉄(II)−ナトリウム硫酸塩・塩化物泉(硫化水素型)

交流会「セセキベツのタペ」

オプション Option

ONSEN ガストロノミーの一日の締めくくりに、交流会を開催いたします。地場産食材のピュッフェに加え、地域プレゼンや抽選会なども予定しております。美味しい食事と参加者同士の交流のひとときをお楽しみください。

【参加費】大人¥5,000、小人（小中学生）¥3,000

※ウォーキング+交流会では大人¥8,000、小人¥5,000となります

【お申込】スポーツエントリーからもお申込みいただけます

【日 時】10月22日（日）18:00～20:00

【会 場】川湯温泉（お宿 欣喜湯）

★ 力泳、乗馬、星紀行など各種体験

オススメの観光情報についても、お気軽にお問い合わせください。

※詳しくは「弟子屈なび」→ <http://www.masyuko.or.jp>

Time Schedule : 10/22 (日)

【昼の部】 ONSEN ガストロノミー

- 7:00～7:45 受付（屈斜路プリンスホテル）
- 8:00 開会式（屈斜路プリンスホテルガーデン）
- 8:30 バスにて和琴半島へ移動（片道5分／ピストン運行）
- 8:40 和琴半島ウォーキングスタート
和琴半島散策路（一周2.5km）
- 10:00 バス（希望者は徒歩）にてコタンへ移動（6km）
ウォーキングスタート コタン～砂湯（5km）
- 11:40～砂湯着
- 13:00 バス（希望者は徒歩）にて川湯温泉へ移動（8km）
- 13:30 温泉街散策路を通り、ゴール
- 16:00 昼の部終了
 - ・基本コース 歩行距離 約7.5km
 - ・鉄人コース 歩行距離 約23km（和琴半島～川湯）

【夜の部】 オプション

- 17:30 交流会「セセキベツのタペ」受付開始
会場…川湯温泉 お宿 欣喜湯
- 18:00 交流会開始
- 20:00 終了

定 員

150名 ※定員になり次第、参加受付を終了させていただきます。

参加資格

大会ルール、交通ルールを順守し、歩ける方でしたらどなたでも。ただし、小学生以下は保護者の同伴が必要です。
介助が必要な方は、介助者の同伴をお願いいたします。

服装・持ち物

- ・運動しやすい服装、歩きやすい靴でお越しください。
- ・平均気温10°Cを下回る可能性も高いので、防寒具は必ずお持ちください。（上着、帽子、手袋など）
- ・雨具、飲料水等は各自でお持ちください。

集合場所

集合は開会式会場の「屈斜路プリンスホテル」となります。
ゴール後は、屈斜路プリンスホテルまでのバスを運行しますので、ご利用ください。

注意事項

雨天決行ですが、荒天時は中止となる場合がございます。
お振込みいただいた参加費はいかなる場合も返金はできません。

お申込（スポーツエントリー）

<http://spoен.net/71439/a>

Webでお申込みが完了する最も便利な方法です。

コンビニ・クレジット決済もOK！



そのほか、FAXでのお申し込みも承っております。

FAX 015(482)1877

様式は問いません。下記必要事項を沿えてご連絡ください。

●参加者全員のお名前 ●電話番号 ●住所 ●生年月日 ●緊急連絡先
受領後、振込先口座をお知らせいたします。

お問合せは…

(一社) 摩周湖観光協会

TEL 015(482)2200

www.masyuko.or.jp/eco/gswalk.html



昼と夜の寒暖差が激しい弟子屈町は、じゃがいもの産地。でんぶん質と糖度の高い、美味しいじゃがいものは、町内外から人気の逸品です。

てしかがえこまち推進協議会では、この美味しい弟子屈産じゃがいもに注目し、どんな品種があるの？品種ごとの違いは何？美味しい食べ方は？など、じゃがいもの更なる魅力を発掘するべく、町内の事業者の皆さんを対象とした講習会を企画いたしました。

当日は榆金シェフによる料理講習を始め、生産者の方によるじゃがいも講義や食べ比べなども予定しております。皆さまの今後のメニュー作りのヒントになりましたら幸いです。

また、日ごろお話する機会の少ない生産者の方々や他の事業者の皆さまとの交流の場にもなればと思いますので、ぜひご参加ください。

榆金シェフ
直伝レシピ付

生産者との
交流

美味しい
試食タイム



講師紹介

榆金 久幸 Gosyuu Nagano
ANAクラウンプラザホテル釧路 総料理長

釧路出身。「釧路パシフィックホテル」「京王プラザホテル札幌」を経て、1996年より「釧路全日空ホテル」入社。2005年より現職である総料理長として、レストランやパンケット全般の監修、外部機関の講師やイベントにおけるソード監修など精力的に活動。地場食材の活用にこだわり「地産地消」の実践を厨房から発信し続ける。

- 本講習会参加には事前申し込みが必要です。
右記連絡先まで、「じゃがいもレシピ講習会参加希望」として、お名前・店舗名・ご連絡先を添えてお申込ください。
- 会場の都合上、少人数での講習会となります。
定員になり次第、受付を終了させて頂きますので、ご了承ください。
- 町内の事業者（飲食店・宿泊事業者等）を主な対象とした講習会となります。
- 筆記用具をご持参ください。

■主 催：てしかがえこまち推進協議会 食・文化部会

■共 催：摩周湖農業協同組合

■後 援：弟子屈町

北海道新聞弟子屈支局、釧路新聞社様茶支局

弟子屈町の じゃがいもレシピ 講習会

町内事業者対象

2016年
3月2日（水）

川湯ふるさと館

13:30 受付開始
14:00 ~ 16:30 講習会
参加費￥1,000

【講習会の内容】

- 榆金久幸シェフによる料理講習 …60分
じゃがいもを使用したメイン、デザートなど3品程度
- 弟子屈産じゃがいもについての講義 …30分
JA摩周湖、生産者の方による解説
- じゃがいもの試食 …15分
町内で生産されているじゃがいもの品種ごとの食べ比べ
- 試食とまとめ …30分
榆金シェフのお料理をいただきながらの交流タイム

【お申込・お問合せ】

てしかがえこまち推進協議会事務局
(弟子屈町役場観光商工課 内)

TEL : 015-482-2940

FAX : 015-482-5669

ecomachi@masyuko.or.jp

申込締切

2/23

活動内容報告書

平成29年12月4日

稚内市議会議員 千葉一幸

活動等の名称	グリーンシード21例会（研究会）
期 間	平成29年11月25日～平成29年11月26日
実施場所	札幌市
実施経費	<p><u>30000</u>円</p> <p><input type="checkbox"/>調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/>研修費 <input type="checkbox"/>広報費 <input type="checkbox"/>広聴費 <input type="checkbox"/>要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/>会議費 <input type="checkbox"/>資料作成費 <input type="checkbox"/>資料購入費 <input type="checkbox"/>人件費 <input type="checkbox"/>事務所費 <input type="checkbox"/>その他</p>
活動等の概要	<ul style="list-style-type: none">「地域が直面している課題」「課題の打開策」 <p>講師： 鈴木 正勝 氏</p>
備 考	

千葉一幸議員 グリーンシード21研修会

旅行期間／平成29年11月25日～26日

旅行行程表

月 日	行 程	滞 在 地
11/25	稚内市 → 札幌市	札幌市
11/26	札幌市 → 稚内市	

旅費計算表

項 目	内 訳	金 額
自家用車	稚内 ⇄ 札幌(315km ※高速道路使用なし) 計 630km×20円	12,600
日 当	@2,700×2日	5,400
宿泊料	@12,000×1日	12,000
合 計		30,000

グリーンシード21例会 研究会

平成29年11月25日(土)

グリーンシード21例会研究会に参加した。講師は鈴木正勝氏。公職としては、富士宮市副市長、裾野市副市長の経験がある。第1部は「地域が直面している課題」第2部は「課題の打開策」と題し講演。地域が目指すべき政策として、大量流通から地産地消、仮想経済から実体経済、株・為替・FX等地域経済の防衛が求められているとしている。域内循環経済の実現に向け、資源浪費の削減に努めるべきとし、具体的に地域産業の発展に取り組む、地域内にて雇用を創出していくかなければ地域が衰退していくと主張。情報消費ではなく、どう情報を発信できるか、発信する情報をどう育んでいくか、産業の振興をどのように取り組むべきか。今まででは合併の議論だったが、これからは生命圈内として議論協議するべきであり、連携・互いに譲り合う、競争の解消による生命圈内として考えていくことが重要になってくると警鐘する。公共の維持に対しては、維持経費を低減していくこと、地域コミュニティの復活、郷土愛精神を育むよう施策の展開。公共依存から主権在民の考え方、政策の断捨離、住民の政治への参加、地方創生事業の成果を検証することによる、確かな将来のための地域に求められている政策の展開が求められてくる。日本のデータでは、財政事情考え方、50の収入、100の支出、1000の借金といわれてはいるが、先進国57か国中57位、国民一人当たり866万円の借金がある試算になる。社会保障給付金（医療・介護）は2015年が118兆円だが、2025年には148兆円と膨れ上がる試算となっている。地方交付税に占める投資的経費は、1960年では70%だったが、2016年には26%に落ちている。2025年問題、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上の時代になり、65歳以上の人口比率は先進国中の1位になっている。合計特殊出生率は193か国中189位の1.46%。家族の姿、夫婦と子供のいる世帯95年1503万世帯34.2%、20年1304万世帯26.6%、単身世帯は95年1125万世帯25.6%、20年では1400万世帯29.7%。高齢者世帯は220万世帯14.6%に対し、537万世帯41.1%まで構成が変化してきている。同居する家族が居ることを前提とした在宅医療・地域包括ケアシステムの活用、同居する家族が居ない在宅医療・地域包括ケアシステムの活用を考えなければならない。地域は縮小発展が求められ、産業の再編、ふるさと納税等を活用した地方分権の考えも重要になる。様々な課題の打開策として新公共経営(NPM)を取り組み揺るがないマチづくり方針が肝要であるとした。本市においても、現状をしっかりと分析し将来を確かにするべく各施策の展開が急務と考えた研修になった。

稚内市議会議員 千葉一幸

グリーンシード21例会（研究会・交流会）

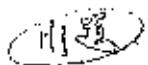
【研究会】

1 日 時 平成29年11月25日(土) 14:30~17:30

2 場 所 T K P 札幌ビジネスセンター赤れんが前 5F「ラベンダー」

熊本市議会 参集を議場へ、一定の見解を示せり。

3 講演内容



第1部 14:45~15:45

「地域が直面している課題」

講師：鈴木 正勝 氏（建築士・再開発プランナー）

第2部 16:00~17:00

「課題の打開策」

講師：鈴木 正勝 氏

【講師プロフィール】鈴木 正勝 氏

1972~1973年にイタリア・ウンブリア州にてイタリア文化・都市計画を学ぶ。この間、歐州各都市の広場について研究。欧米の町並み・商店街に研究対象を拡大、「賑わいとは何か」について科学的な分析を試みる。その後、静岡県において都市政策、県内13都市の都心再生に携わる。静岡総合研究機構において静岡・清水両市の合併を支援。

静岡県企画部技監退官後、富士宮市副市長、裾野市副市長を経て現在に至る。

第3部 17:00~17:30

事例報告

(1) 「G S 21的条例勉強会」

(報告者：厚真町・下司義之氏、南幌町・菅原文子氏)

(2) 「後志塾」(報告者：俱知安町・田中義人氏)

【交流会】

1 日 時 平成29年11月25日(土) 18:00~20:00

2 場 所 「サッポロクラシックバー」

(札幌市中央区北2西4 赤レンガテラス3F)

サブプライム カーリー
 アメリカ 優勢
 世界空 売出
 投機空 売出
 P. I.

I 地域が目指すべき政策

大量流通から地産地消
安全新鮮・身土不二

切身
GDP 9% 1月第

域内循環経済の実現

地域産業の発展

資源浪費の削減

地域雇用の創出

情報消費から情報発信
情報基盤の整備

アートで
アートで世界

今までの合併から生命圈域
地域対立・競争の解消

交流
流域文化

発信情報の育成

医療工

柔らかな連携・互譲

市民
准市政

交流産業の振興

医
事
業

地域事業の拡大

公共維持から里親維持

公共依存から主権住民

維持費用の低減

政策も断捨離の時代

地域社会の復活

参加意識の向上

郷土意識の向上

地域ガバナンスの向上

1UP → 5P
半日 → 10P

↓
地方創生事業 5年目の成果は

目前に迫っている危機

29日目の恐怖

行政がまくらねえ

公
私

II 日本のデータ

P 2

1 財政事情： 「50の収入、100の支出、1000の借金」

長期債務

	国家	地方	合計	位 数
1980年	71	39	110兆円	位数 後退傾向
95年	225	125	279兆円	位数 後退傾向
05年	720	220	870兆円	位数 後退傾向
	1043兆円(2016)	*	GDP比 2倍超	位数 7位後退傾向

(866万円／国民1人当たり)

57位／先進国57カ国

国債利払い

20兆円／100兆円

2007
位数
後退

社会保障給付費(医療、介護...) 118兆円／2015年 - 148兆円／2025年

地方交付税に占める投資的経費

70% (1960) 26% (2017)

2 人口事情

迫りくる2025年問題

1人／3人(65歳以上) 1人／5人(75歳以上)

15歳以下人口比率

57位／57カ国

65歳以上

1位／57カ国

独身比率

29歳以下 73%

35歳以下 50%

生涯未婚比率

男性 一人／4人

女性 一人／7人

合計特殊出生率

1.46 189位／193カ国

地域産業 進行中止

3 家族の姿

P 3

夫婦と子供のいる世帯	95年 1503万世帯 (34.2%)	20年 1304万世帯 (26.6%)
単身世帯	95年 1125万世帯 (25.6%)	1400万世帯 (29.7%)
上記に占める高齢者世帯	220万世帯 (14.6%)	537万世帯 (41.1%)
老々介護の実態	65歳以上 75歳以上	(54.7%) (30%)

* 同居する家族が居ることを前提とした「在宅医療」・「地域包括ケア」

* 核家族化から始まった家族の姿の変容、現状の社会システム？

4 地域再編

[地政圖]

明治・昭和・平成の大合併

明治21年 71314 → 明治22年 15859

昭和28年 9868 → 昭和31年 4668

平成13年 3223 → 平成17年 1821

このころ同時に「道州制」の導入も議論の俎上に 「東北4県」「北陸3県」・・・

* 静岡県が「政令県構想」を提案；国の反発を招いた！

(アメジスト、ブルー、オレンジ)

5 (縮小発展)

	2000年	2030年	(30/00)
全国	12691万人	11756万人	0.93
北海道	568	477	0.84
東北	1229	1073	0.87
関東	4132	4075	0.99
中部	1699	1567	0.92
近畿	2086	1916	0.92
四国	415	351	0.85
九州	1476	1367	0.93

6 (産業再編)

産業別就業人口

	1次	2次	3次	
1950年	48%	22%	30%	
	(26%)	(32%)	(42%)	高齢化社会
70年	19%	34%	47%	
	(3%)	(41%)	(56%)	日本アベノミクス
00年	6%	32%	62%	
	(2%)	(33%)	(65%)	

* () 内は所得割合

最高17.5%

[1] 17.5%

7 (地方分権)

権限委譲

から

税源移譲

税収(国家:地方) 3 : 2

仕事 2 : 3

税源移譲額 一 5.5兆円

大都市圏

から

地方へ

(例)「ふるさと納税」

自治体ごとに

II 地域が目指すべき政策 「小さな地方政府」実現のため

P-1

1 新公共経営（NPM）について

政策立案段階から行政との接続

(1) 従来の総合計画

(例) 将来都市像：「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」



「恵みを活かした・・」：地域資源をどこまで把握しているか

「元気に輝く・・」：我が街の産業構造をどこまで・・

「国際文化都市」：なにをして国際レベル？



・ 「目的志向型行政運営」（NPM）に変える必要

・ (資料-1)

「顧客満足志向」・・市民の立場に立って成果を追及 *1

「生産性向上」(効率性と効果性)・・サービスの質の向上

市民や企業で

「手段の最適化」・・最適実施主体に任せる（民間活力の活用）

行政や他の半官

会社で

(2) 組織全体のマネジメント機能の強化

「権限委譲」・・権限をなるべく窓口に近く移譲

「人材育成」・・組織能力と個人能力の向上

人材育成
組織能力

「自己実現」・・市民からの要請と自己成長への期待

*1 「目的志向型総合計画」

基本方向を明確化

アウトカム指標で

経営資源（財源・人材・時間）を洗い直す

(例) 産業・地域経済：「〇〇市マクロ経済モデル」の構築

・ (資料-2)

「小さな地方政府」実現のため 「手段の最適化」(民間活力の活用) P-2

2 PPPの概念の確立

・・(資料-3)

(1) 734兆円の公的不動産の内、民間活力(PFI等)を活用しているのは4,7兆円

(2) SIBの可能性について ・・(資料-4)

① 新しい官民連携の社会的投資モデル

行政サービスを民間企業やNPOに委託し、民間資金提供者が投資、その事業で得られた成果(コスト削減など)に応じてリターンが得られる仕組み。

② その背景

少子高齢化の進展

求められる行政コストの削減

イノベーションの必要性

③ 多方面にわたる応用範囲

ヘルスケア領域 認知症予防

特別養子縁組 若者就労支援

受刑者再犯防止 子ども・家庭支援

世界の社会科学

3 社会構造の変容にあわせた「都市構造」について

① 従来の「ガラパゴス的都市計画」から「縮小・均衡の都市計画」に 戦後

避けられない地方都市の「人口減少」と「構造的財政難」

↓

「出生率」の向上や「人口流出」を食い止めることに最大限の努力をする

しかし、「人口減少」は避けられない・と認めた上で

↑

「ダンゴ」と「串」のまちづくり：(コンパクトシティ) ・・(資料-5)

(徒歩圏内での集住) と (弱者に優しい公共交通の確保)

+

「立地適正計画」：「居住誘導区域」と「都市機能誘導区域」の位置づけ ・・(資料-6)

* 従来の土地利用や都市計画の上位計画(高度化計画)

4 「行政経営」について

経営戦略としての「シティセールス」と「IR」(investor relations)
リーダー自ら投資家に対して「IR」や「PR」

投資環境の変化に対応

求められる戦略性とインセンティブ

揺るがない「まちづくり方針」
富山 市政

「民間活力導入」の仕組みづくり

(MEMO)

県政は、いま！

全国初!! 本格的な新公共経営（NPM）

～静岡県が取り組んでいる新しい行政運営システム～

県有徳
しづおかの貢献

県民の幸福の増進のために、一層効率的で効果的な行政運営が必要です。

今、静岡県は、民間企業の經營理念や手法を適用した“新しい公共経営”に取り組んでいます。

新しい総合計画「魅力ある“しづおか”2010年戦略プラン」では、成果を表す明確な数値目標を設け、これに向かって事業を実施することになりました。

また、これを以前から進めてきた「業務棚卸表」と連結させることにより、事務事業の成果を評価し、改善するシステムが確立しました。

ここでは、こうした本県が進める日本版新公共経営（ニュー・パブリック・マネジメント）ともいべき「目的指向型行政運営システム」について説明します。

◎ 今、なぜ、NPMか

令私たちは、地球環境問題の深刻化、資源エネルギーの制約、経済や福祉・雇用の先行き不安など、様々な課題や危機に直面しており、右肩上がりの経済成長を前提とした経済社会システムが限界を迎えています。

行政の分野においても、予算の配分額に主な関心を寄せる伝統的な行政管理の限界が指摘され、限られた人的・財政的資源の下で、行政の生産性（効率性・有効性）の一層の向上を図り、住民満足度を高められる行政への転換が求められています。

英米の先進的な地方公共団体や中央政府では、こうした要請に応え、公共部門においても企業経営的な手法を導入した新公共経営（New Public Management : 「NPM」という。）と呼ばれる新しい行政運営（行政経営）システムの導入が進み、これが世界的潮流となっています。

我が国においても、地方分権が進展する中で、ますます高度化・多様化する住民ニーズに的確に対応し、住民の幸福の増進に向けて、一層効率的・効果的な行政運営が必要であり、NPMの発想を取り入れた創造的行政運営（行政経営）システムの確立が求められています。

◎ NPM（ニューパブリック・マネジメント）とは、

民間企業で活用されている経営理念や手法を、可能な限り公的部門へと適用することにより、公共部門のマネジメントの革新を図ろうとする新しい公共経営を総称してNPMといい、欧米諸国では、1970年代以降、赤字財政・公的債務の肥大化と公的部門のパフォーマンス（業績／成果）の悪化という二つの危機が顕在化したことを受け、取組が進んでいます。

「NPM」とは、戦略計画の策定と、その達成度合いをモニタリング（業績測定）する評価システムの設計などを主眼とする新しい公共経営の手法です。

新しい行政運営システムの必要性

背景

- 右肩上がりの経済成長を前提とした社会経済システム
- 中央集権を基本に形成されてきた行政システム
- 地方分権型社会に対応した新たなシステムの構築が必要
- 自律的行政運営能力（自治能力）の向上が必要

これまでの行政運営システムの課題

- 投入資源ご力点
- 対症療法治的な改善
- 改善が短期・断片的

求める新しい行政運営システムの条件

- 成果により評価・判断するシステム
- 目的から見直し、抜本的な改革につなげるシステム
- 継続した改革ができるシステム

新しい公共経営（NPM）の確立

目的やその成果を明確にしながら、計画→実施→評価・改善というマネジメントサイクルを着実に繰り返す行政運営システム

NPMは、おおむね次の特徴をもって定義されます。

- ① 顧客主義への転換（住民を公共サービスの顧客と見ること）
- ② 業績／成果による統制（数値目標の設定と行政評価）
- ③ ヒエラルキーの簡素化（組織のフラット化等）
- ④ 市場メカニズムの活用（民営化、エージェンシー、PFI等）

◎ 静岡県が進める日本版NPM「目的指向型行政運営システム」

静岡県では、明確な成果目標のもとで、計画(Plan)－実施(Do)－評価・改善(Check, Action)を的確・確實に繰り返す行政運営の体系を構築し、我が国初の本格的なNPM（新公共経営）を確立します。

具体的には、平成14年4月に策定した新しい総合計画「魅力ある“しづおか”2010年戦略プラン」やこれまでに作り上げてきた「業務概要表」が、我が国初の本格的なNPMの構築に向けた取組です。

静岡県の目的指向型行政運営システム

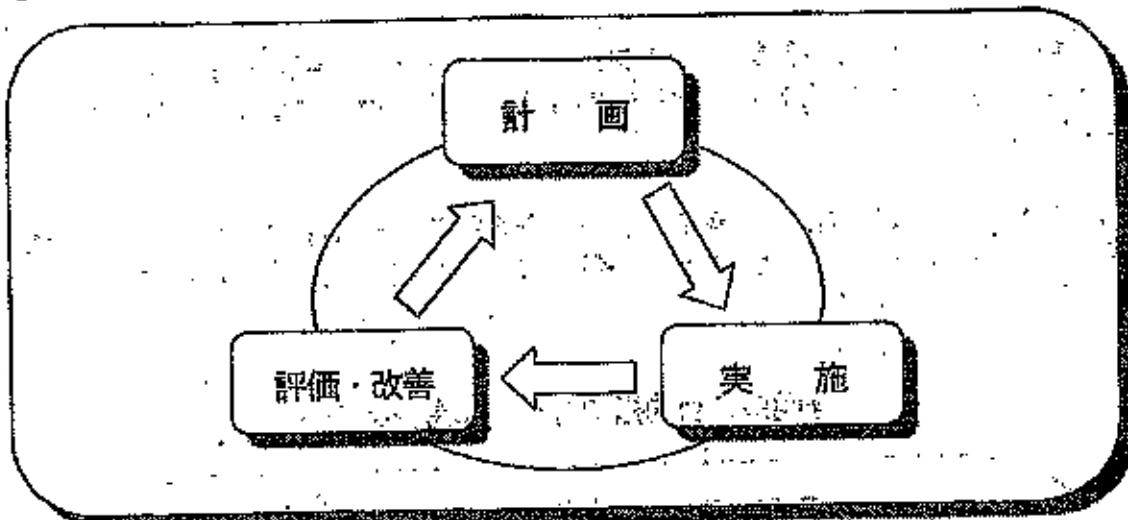
全局的な方針管理を確立し、明確な成果目標のもとで、計画・実施・評価・改善を的確、着実に繰り返す行政運営の体系を構築

主な構成要素		
計画	新しい総合計画 「2010年戦略プラン」	長期数値目標と基本方向を明確化
	戦略展開システム	トップダウンの基本方針を指示 予算編成に反映
	業務概要表	数値目標と当該年度の施策の実施方向を明確化
実施	フラットな組織	目的指向型組織で効率的実践
	電子県庁	高度情報化による業務支援
	ひとり1改革	職員一人ひとりが自ら改革・改善を実施
評価 改善	戦略プラン進行管理	分野ごとの数値目標を基準に評価
	業務概要表の活用	成果に基づく施策・専務事業の評価と改善

成果の主な現われ	
予算改革	徹底したスクラップ&ビルト（注）
人事改革	能力開発と人材活用等を図る勤務成績評価
意識改革	目的達成への参加意識（ひとり1改革 8,000件超）

(注) 平成10～14年度当初予算 見直し計 約1,900億円

◎ NPMの基礎となるマネジメントサイクル



計画段階では、

- ① 新しい総合計画「2010年戦略プラン」により平成22年度（2010年度）を目途とした168項目の長期の数値目標と基本方向を明確化
- ② 特に新機軸を打ち出したい項目等は、「戦略展開システム」を活用し、トップ・ダウンで基本方針を指示し、予算編成に反映
- ③ 確定した方針性、「業務概要表」に組み入れ、数値目標と施策・事務事業の方策を明確化
毎年度の「予算編成」においては、数値目標と財政状況を踏まえ、より効率的・効果的な施策・事務事業に財源を重点配分するため、スクラップ・アンド・ビルトを徹底（その後、業務概要表を踏まえてゼロベースでの見直しを実施し、必要に応じて費用便益分析を活用）

実施段階では、

- ① 目的別の「フラットな組織形態」を採用し、効率的・効果的に施策・事務事業を執行
- ② 「電子県庁」を推進し、高度情報化により業務を支援
- ③ 「ひとり1改革」により、職員一人ひとりが自ら改革・改善を実施

評価・改善段階では、

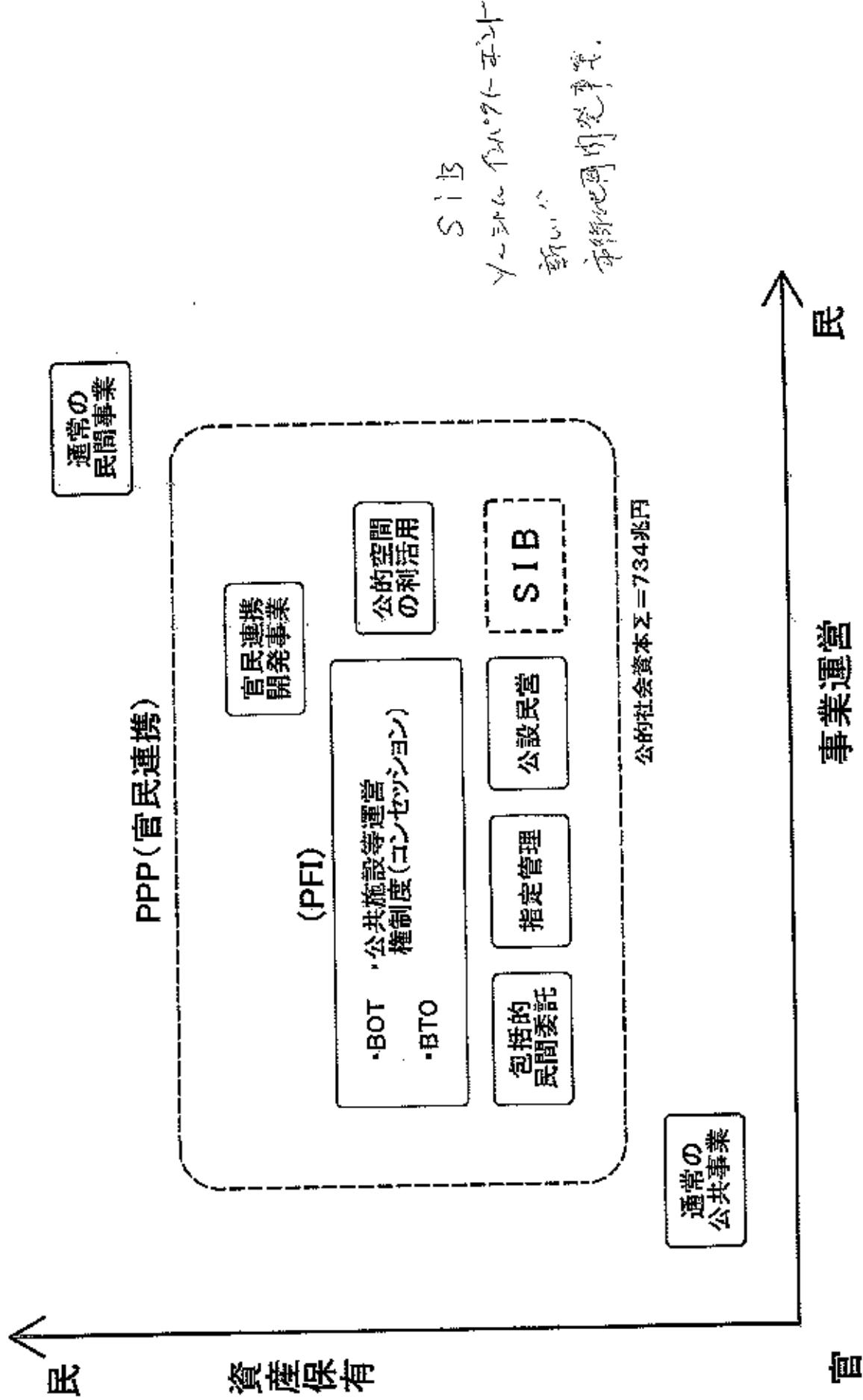
- ① 「業務概要表」を活用し、数値目標等を基準に成果を評価
- ② 同時に施策・事務事業の評価と改善を実施

日常管理においても、

「業務概要表」を作成書にして、施策・事務事業の手順の検討・決定を行い、作業スケジュールを明らかにするとともに、行政運営サイクルを着実に繰り返して実施

静岡県企画部総合計画室 〒420-8601 静岡市追手町9番6号
TEL: 054-221-2184 FAX: 054-271-5494
e-mail: s-keikaku@hq.pref.shizuoka.jp

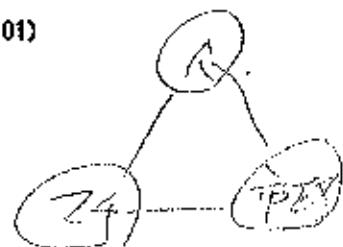
PPP(Public Private Partnership)イメージ



経営計画

141104 (VSM.01)

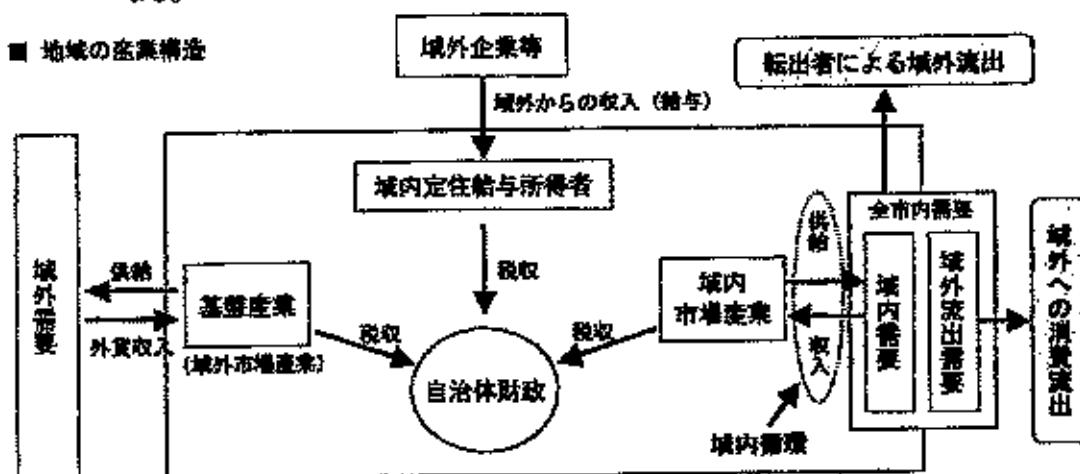
自立したまちづくりのための基礎調査（素案） ～産業政策の視点から～



1. 調査課題の認識

生産年齢人口の減少、国内産業の空洞化、国による地方分権化政策の推進等の時代背景の中で、今後、加速度的に地方自治体の財政状況が悪化することが懸念されている。市も例外ではなく、今後、中・長期にわたって行政財政基盤を維持し、健全な発展を続けるためには、限られた土地資源を有効に活用する土地利用政策とリンクした戦略的な産業政策によって雇用と新たな税収源を確保することが不可欠である。

地域の産業構造を自治体の財政収入という視点から整理すると下図のようになる。



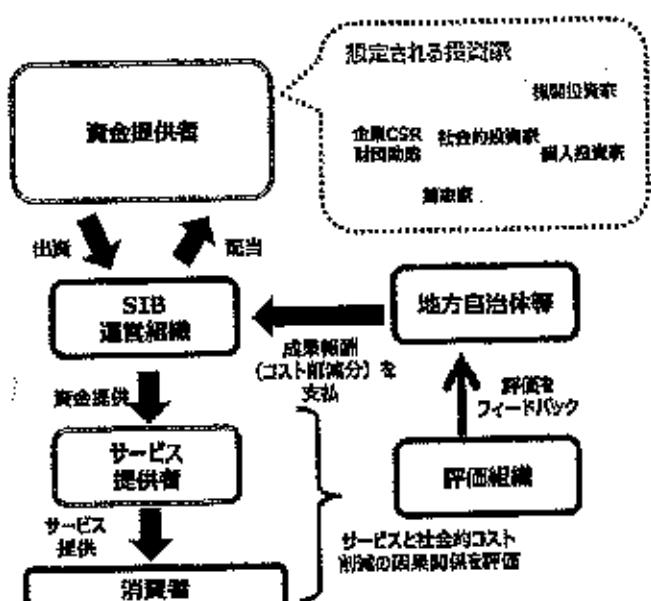
この構造からみて、今後、足腰の強い自治体の財政基盤を確立するために、以下の事項が課題としてあげられる。

- 1) 外貨を稼げる基盤産業の誘致・育成・廃業等衰退の防止
- 2) 地域需要(内需)をできるだけ域内で賄う域内市場産業支援、育成(域内循環の拡大)
- 3) 外貨(給与)を域内に待込む給与所得者の定住促進
- 4) 社会移動による転出者の防止(域内需要の流出防止)

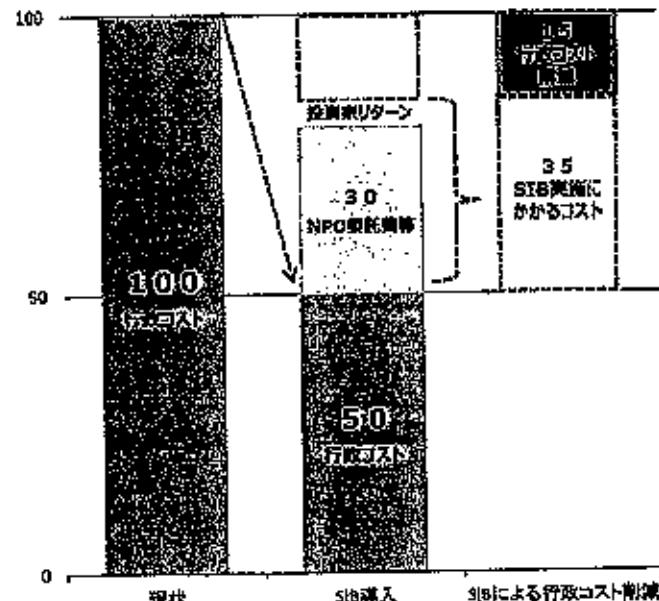
ソーシャルインパクトボンド（SIB）とは

- SIBとは、民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果（社会的コストの効率化部分）を支払の原資とするもの。
- 既にニューヨーク市等では、民間事業者が取り組む活動の社会的インパクト（行政コスト削減等）を数値化し、自治体等がその成果報酬を支払うSIBの導入が図られ、民間資金の活用が進んでいる。

<SIBの一般的なスキーム>



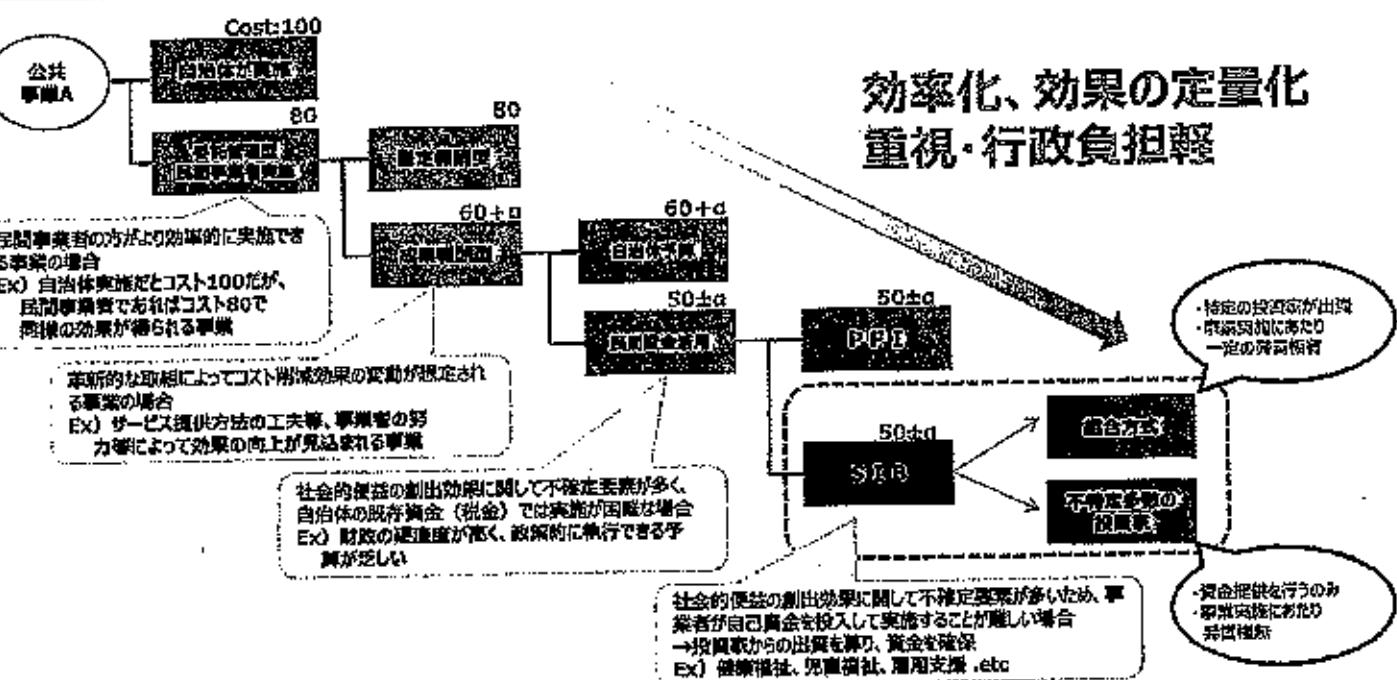
<SIBによる行政コスト削減イメージ>



4

SIB実現可能領域の要件と地方自治体の公共事業との関係性

- 地方自治体単独実施**
 - **民間委託**：①民間事業者の方が効率的に実施可能
 - **成果報酬型**：かつ、②革新的な取組によってコスト削減効果の変動が想定
 - **民間資金活用**：かつ、③社会的便益に関して不確定要素が多く、自治体の既存資金では実施が困難
 - **ソーシャルインパクトボンド**：かつ、④事業者が自己資金を投入して実施することが難しい場合



7

なぜコンパクトシティか？

持続可能な都市運営(財政、経済)のため

- ・公共投資、行政サービスの効率化

- ・公共施設の維持管理の合理化

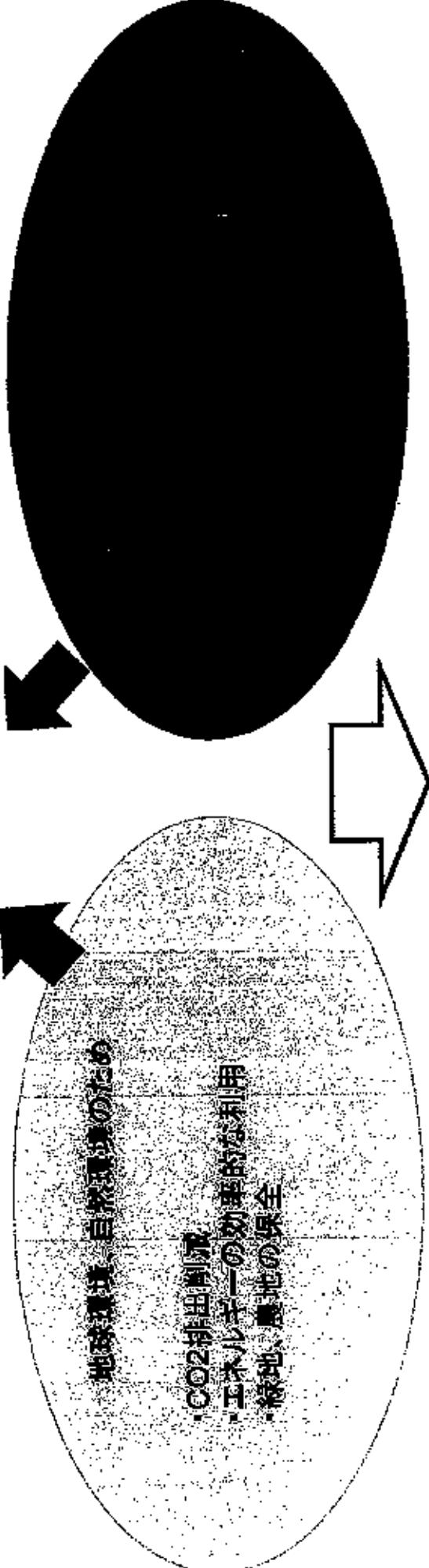
- ・住宅、宅地の資産価値の維持

- ・ビジネス環境の維持・向上、知恵の創出

- ・健康増進による社会保障費の抑制

コンパクト＋ネットワーク

- ・高齢者の生活環境・子育て環境のため
- ・子育て、教育、医療、福祉の利用環境向上
- ・高齢者・女性の社会参画
- ・高齢者の健康増進
- ・仕事と生活のバランス改善
- ・コミュニティ力の維持



限られた資源の集中的・効率的な利用で
持続可能な都市・社会を実現

コンパクトシティをめぐる課題

コンパクトシティをめぐる誤解

一極集中

市町村内の、最も主要な拠点(大きなターミナル駅
周辺等)1カ所に、全てを集約させる

多極型

中心的な拠点だけではなく、旧町村の役場周辺など
の生活拠点も含めた、多極ネットワーク型のコン
パクト化を目指す

全ての人口の集約

全ての居住者(住宅)を一定のエリアに集約させる
ことを目指す

全ての人口の集約を図るものではない

たとえば農業等の従事者が農村部に居住することは当然。
(集約で一定エリアの人口密度を維持)

強制的な集約

居住者や住宅を強制的に短期間で移転させる

誘導による集約

インセンティブを講じながら、時間をかけながら居住
の集約化を推進

都市再生特別措置法等の改正(概要)

背景

- ・地方都市では、高齢化が進む中で、市街地が拡散して低密度な市街地を形成。大都市では、高齢者が急増。

法律の概要

立地適正化計画（市町村）

- ・都市全体の観点から、居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実に関する包括的なマスタープランを作成
- ・民間の都市機能への投資や居住を効果的に誘導するための土俵づくり（多極ネットワーク型コンパクトシティ）

都市機能整備区域

○既存の市町村における工場ビル等を工場ビル等を設定する制度を設定

- ◆都市機能（福祉・医療・商業等）の立地促進
- 立地施設への税財政・金融上の支援
- ・外から内（まちなか）への移転に係る賃貸特例
- ・民間機関による出資等の対象化
- ・交付金の対象に適所型福祉施設等を追加
- 福利・医療施設等の建替等のための容積率等の緩和
- ・市町村が誘導用途について容積率等を緩和することが可能

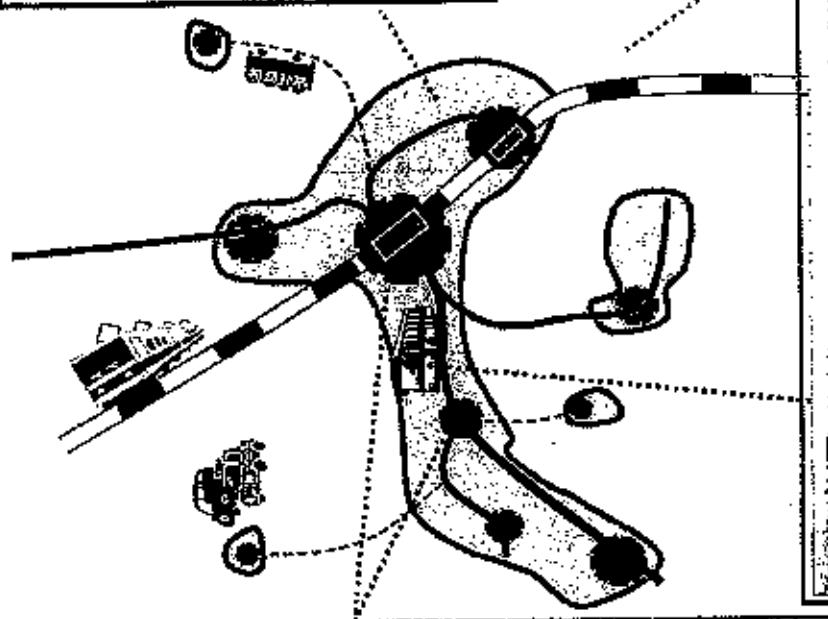
- 公的不動産・臣未利用地の有効活用
- ・市町村が公的不動産を誘導施設整備に提供する場合、国が直接支援

歩いて暮らせるまちづくり

- ・歩行者と車の集約化も可能
- ・歩行者の利便・安全確保のため、一定の駐車場の設置について、届出、市町村による働きかけ
- ・歩行空間の整備支援

区画外の都市機能立地の緩やかなコントロール

- ◆公共交通を軸とするまちづくり
- 地域公共交通網形成計画への認可、計画策定支援（地域公共交通活性化再生法）
- ・整備したい機能の区域外での立地について、届出、市町村による働きかけ



居住誘導区域

○既存の市町村における工場ビル等を工場ビル等を設定する制度を設定

- ◆区域内における居住環境の向上
- ・区域外の公営住宅を除却し、区域内で建て替える
- ・区域外の公営住宅を除却し、区域の除却費の補助
- ・住宅事業者による都市計画、景観計画の提案制度（例：低層住宅専用地図への用途変更）

- ◆区域外の居住の緩やかなコントロール
- ・一定規模以上の区域外での住宅開発について、届出、市町村による働きかけ
- ・市町村の判断で開発許可対象とすることも可能

- ◆区域外の住宅等跡地の管理・活用
- ・不適切な管理がなされている跡地に対する市町村による働きかけ
- ・都市再生推進法人等（NPO等）が跡地管理を行うための協定制度
- ・協定を締結した跡地の適正管理を支援

2017 厚真産バスカップフェア in 札幌

厚真産バスカップと札幌のショップがコラボレーション！！

■期間■

各店共通 11月21日（火曜日）～12月20日（水曜日）

■店舗■

・ 粥餐厅（かゆさんちん）バセオ店
北区北6西2/バセオウエストB1F
☎011-213-5640

・ コスメキッチンジューサリー 札幌ステラプレイス店
北区北6西2 札幌ステラプレイスCENTER B1F
☎011-209-5547

・ ショコラティエマサールバセオ店
北区北6西2バセオWEST 1F
☎011-213-5610

<問い合わせ・連絡先>

〒059-1692

勇払郡厚真町京町120番地

厚真町厚真産バスカップブランド化推進協議会
厚真町産業経済課 経済グループ 担当：藤田あさこ
電話0145-27-2486
FAX 0145-27-3944

<粥餐厅> 豚角煮とキタアカリのハスカップかゆ・ハスカップ杏仁

・豚の角煮にハスカップソースが見事にマッチしました。角煮のコクに、ハスカップの酸味がさわやかに広がります。キタアカリ、プロッコリー、ホウレン草のトッピングも美しい！さらになんと、お粥の中にポテトサラダ！？味の想像が難しいですが、食べれば納得間違いナシの一品に仕上がっています。昨年、大好評だった杏仁豆腐もリクエストに応え、再登場。



<コスメキッチンジューサリー> 厚真産ハスカップのコールドプレスとスムージー



・厚真産ハスカップミックスベリー（スムージー）酸味が苦手という方にお勧めです。まろやかな仕上がりは、ハスカップを知らない、入門者の方にもぴったり。

・厚真産ハスカップカカオナッツミルク（コールドプレス） 目にも鮮やか！そして、飲んだ瞬間も鮮やかに広がる飲み心地。カカオナッツによりハスカップ本来の酸味が際立つ一杯に仕上りました。ハスカップに馴染のある方にも、きっと衝撃の1杯になるはずです。

<ショコラティエマサール> 厚真産ハスカップホワイトケーキ ヴレ

・こだわりのケーキを自慢のホワイトチョコレートでコーティング。スプーンを入れると、鮮やかな厚真産ハスカップが登場します。なめらかな口どけムースにハスカップの酸味が絶妙にマッチ。上品な味わい。



グリーンシード 21 的条例勉強会（中間報告）

2017.11.25 G シード 21 例会資料

報告者：下司義之・菅原文子

1. 目的

本会は、G S 2 1、条例、議会・議員についてディスカッションしていく場と考えています。

また、議会や自分の議員としての悩み、問題などを一緒に考え解決に導くような会でもあります。

2. 会員 伊藤ふじお、岩崎泰好、鵜城雪子、内山美穂子、榎政信、下司義之、

菅原文子、多田政拓、燕昌克、広瀬寛人、森弘樹、山本博美、以上 12 人。

3. 顧問 松本 藤

4. 勉強会報告

【1回目】

日時・場所：6月3日（土）13時30分～17時00分 札幌経済センター会議室

参加者：会員 8 人、ゲスト 1 人

テーマ1：講師 松本 藤先生

地方自治の核心と議会・議員の課題

①グリーンシード設立のきっかけ・思い

②地方自治の根幹

③二元代表制における首長と議会

④議会への市民参加

⑤「政策」へのアプローチ

【2回目】

日時・場所：7月15日（土）13時30分～17時00分 札幌経済センター会議室

参加者：会員 10 人

テーマ1：講師 多田政拓さん

議会基本条例は必要ないとの立場で議員活動を行ってきた議員による、まちづくり基本条例の策定の流れと、議会基本条例の策定状況とその内容。

テーマ2：会員からのテーマ提供

・N P O 法人の理事を議員が兼務することの可否

・留萌市幼児療育通所センター整備計画の経緯

【3回目】

日時・場所：9月30日（土）13時30分～17時00分 札幌経済センター会議室

参加者：会員 8 人、ゲスト 2 人

テーマ1：講師 西科 純さん

①議会改革・活性化とは何か ②議会サポーター制度

活動内容報告書

平成30年1月31日

稚内市議会議員 千葉一幸

活動等の名称	食資源活用による地域づくり活動報告会
期 間	平成30年1月24日～平成30年1月25日
実施場所	札幌市
実施経費	<p style="text-align: center;"><u>30000</u> 円</p> <p><input type="checkbox"/>調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/>研修費 <input type="checkbox"/>広報費 <input type="checkbox"/>広聴費 <input type="checkbox"/>要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/>会議費 <input type="checkbox"/>資料作成費 <input type="checkbox"/>資料購入費 <input type="checkbox"/>人件費 <input type="checkbox"/>事務所費 <input type="checkbox"/>その他</p>
活動等の概要	<ul style="list-style-type: none">・官民を挙げてブランド認証を進める取り組み 講師：羅臼海産株式会社 吉田 浩樹 氏・食と景観による着地型観光事業 講師：鶴居村観光協会事務局長 服部 政人 氏・新観光研での観光振興の取り組み方について 講師：はまなす財団 小倉 龍生 氏
備 考	

千葉一幸議員 はまなす財団研修

旅行期間／平成30年1月24日～25日

旅行行程表

月 日	行 程	滞 在 地
1/24	稚内市 → 札幌市	札幌市
1/25	札幌市 → 稚内市	

旅費計算表

項 目	内 訳	金 額
自家用車	稚内 ⇄ 札幌(315km ※高速道路使用なし) 計 630km×20円	12,600
日 当	@2,700×2日	5,400
宿泊料	@12,000×1日	12,000
合 計		30,000

食資源活用による地域づくり活動報告会

平成30年1月24日

官民を挙げてブランド認証を進める取り組みと題して羅臼海産（株）吉田氏が講演。はじめに、地域の課題として、展示会・商談会に出展した際に「羅臼としてのブランド」が確立できていない点。民間有志が決起し、羅臼特産品の統一的な魅せ方を中小企業団体中央会の事業を活用し取り組みが始まった。活動概要は、ブランドをどのようにつくるか、外部専門家とともにワークショップ開催。意識の統一を図る。キャッチフレーズを作成し、ロゴデザインを作った。最終的に羅臼町の物産振興共通のブランドデザインへ進めていった。実績として、「知床らうすブランド認証品」認証を受けた企業中心にて「知床らうす特産品販売振興会」の立ち上げ、振興会にてロゴPRや認証品販売路拡大を活動している。今後は、商談会・物産展出店時に共同出店することによるコスト削減、羅臼町全体のPRを行っていく。知床羅臼の更なる知名度向上に努めていきたいとした。食と景観による着地型観光事業と題して鶴居村観光協会 服部事務局長が講演。鶴居村の課題として着地型観光を展開し滞在時間を延ばすこと、農商工連携による特産品開発とグリーンツーリズム中心の観光事業が課題としている。今後の北海道観光を考えたときにインバウンドへ宿と交流を起点にした取り組みが効果的ではと分析している。予約受付後にニーズを探り、食と景観の着地型観光を提案している。村の人たちと交流を促進することによるリピーター・ファンになってもらうこと。「また来ます」「次はもっと長く」を一人でも多く出来るよう取り組むことが鶴居村としての観光振興の形ではと示していた。2つの取り組み事例から、稚内市における稚内ブランド認証制度にもヒントになるような取り組みであり、今後の稚内ブランドが認証制度に留まらず、各特産品展示会・物産展など稚内代表として露出すること、地域のPRになるべくブランド展開を期待したいと思う。着地型観光により観光振興では、稚内市における観光関係者自らによる鶴居村のような取り組みが1つでも展開されること、展開され成功組を増やしていく取り組み、評論に終わらず実践していく仕掛け仕組みづくりが求められていると感じている。はまなす財团では新観光研の取り組み、観光協会が抱える共通の課題を解決するとともに、自主財源の確保、観光振興・物産振興を行い地域活性牽引する組織となることを目指した観光協会同士による研究会。今回は、はまなす財团事務局側より、取り組み事例をレクチャーいただき地域の観光振興策展開を学ぶこともできた。稚内市の観光施策においても一部関係者にて話し合うことに留まらず、成功事例、外部専門家導入、ワークショップ開催による方向性の統一、観光関係者間による当事者意識の醸成を取り組むことに力点を置き、訪れるお客様が今以上に楽しめる観光地になるべく取り組んでいくことが求められていること一つひとつ具現化していくことを期待したい。

稚内市議会議員 千葉一幸

地域づくりシンポジウム 2018
～食資源活用による地域づくり活動報告～
開催要領

1. 開催目的

- ・地域づくり活動発掘・支援事業も実施開始から4年が経過し、それぞれ活動の進展がみられるようになってきている。
- ・そこで、はまなす財団の支援先のうち、「食」関連の活動報告という位置づけとしたシンポジウムを開催する。
- ・参加対象者は、はまなす財団の地域づくり活動発掘・支援事業等の支援先の民間団体に加え、行政、支援機関とする。
- ・報告者は支援先から民間活動団体の扱い手とし、はまなす財団のスタッフがその支援のポイントを解説する。

2. 開催概要

北海道においては、少子高齢化や人口減少が進む中、地域活力を確保していくことが急務となっています。国等でも地域創生に向けたし施策が展開されていますが、なかなか地域の民間活力へのテコ入れにはつながっていない状況にあります。そのためには、地域の稼ぐ力の醸成を進め、次世代につなぐ活動が不可欠ではないでしょうか。

その中でも、他地域にない北海道特有の地域資源である豊富で優良な食資源を活用して新たな地域おこしの起爆剤としているという活動も出てきています。

公益財団法人はまなす財団では、地域づくり活動を展開する民間の活動団体を支援してきており、その中でも食資源を活用した地域づくりに取り組む事例もいくつか成果を上げるようになってきています。

本シンポジウムは、このような食資源を活用した活動事例を活動の扱い手からの報告を中心に進め、地域づくり活動の主体同士によるノウハウの共有、意識の向上を目的として開催いたします。

3. 開催日時

平成30年1月24日（水）

第一部：13：30～17：00 第二部：17：30～19：00（交流会）

4. 開催場所

ホテルニューオータニイン札幌（札幌市中央区北2条西1丁目1-1）

第一部：「鶴の間」 第二部：「北星の間」

5. 主催

公益財団法人はまなす財団

6. 参加対象

地域づくり活動発掘・支援事業支援先等の活動団体構成員、支援団体、市町村等（最大100名程度）

7. 参加費

無料

※交流会は有料（3,000円程度）

鶴居村の課題

- ▶ 釧路湿原国立公園にも指定されており、日本で最も美しい村連合に加盟。
- ▶ 着地型観光を展開して滞在時間を延ばす。

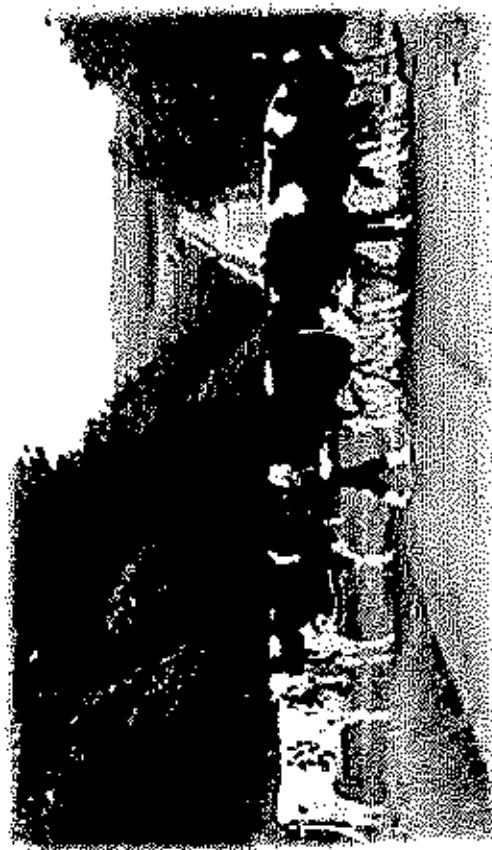
the most beautiful

villages, in Japan

鶴居村

北海道

- ▶ 農商工連携による特産品開発とグリーンツーリズムを中心とした観光事業が重要！



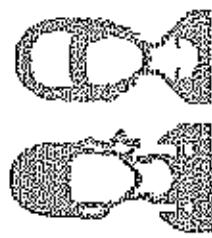
NPO法人
TSURUI Tourist Association
鶴居村観光協会

今後の方向性を考える ～インバウンド編～

“宿”と“交流”を起点にした
食と景観による着地型観光



予約受付後にニーズを探り、 食と景観の着地型観光を提案



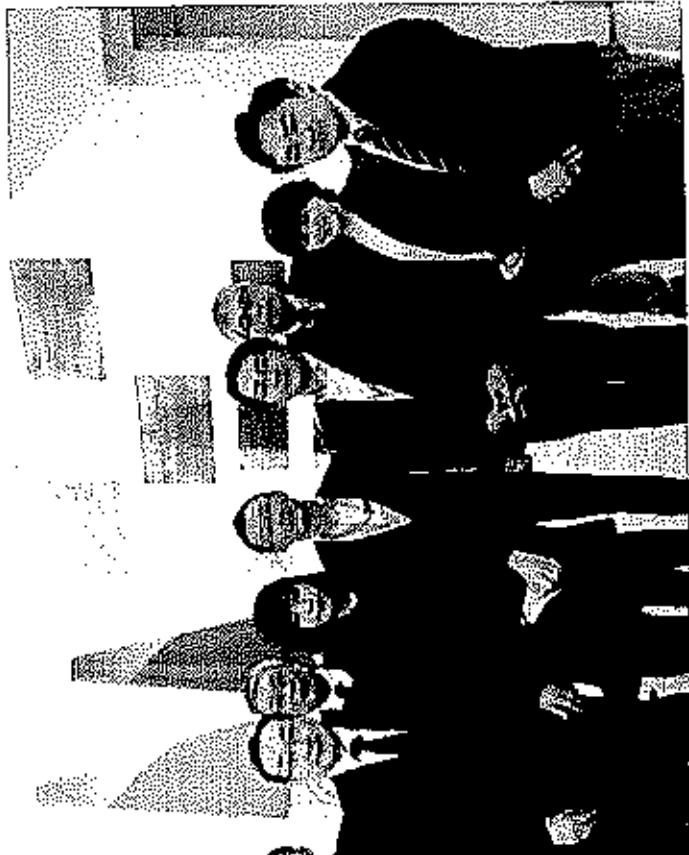
どういう体験をしたい
ですか？



交流により村のリピーターファンに
「また会いに来ます」
「次はもつと長く」



新観光研から学ぶ!



新観協研 DMOな仲間たち



鶴居村農泊推進モニターツアー



NPO法人 鶴居村観光協会
TSURUI TOURIST ASSOCIATION

1. 地域の概要と課題

- 羅臼町は水産業が基幹産業であり、近年は観光への取り組みも進んでいる。
- 地域の水産加工企業は、21社あり、漁協を中心に行き各々の取り組みを進めている。
- 課題として生じていたのは、同じ展示会や商談会に出展した際に、「羅臼」としてのブランド」がなかなか作れていなかつたことがある。

2. 活動のきっかけ

○株式会社ケミクルの芦崎社長と話していく中で、「羅町の企業の統一的なパッケージ」を検討していった。

○そこで、共通の口ゴーデザインやパッケージの可否性を会議で話し合った。また、中大企業が組み合わさって、中堅企業が小企業と一緒に組み合つた。

3. 活動の概要

- 羅臼ブランドをどのようにつくるか
- そのためにディレクターを導入してワークショップから開催した
- 2社だけではなく、それ以外の会社にも声掛けを行った。
- ディレクターとの共同作業で意識の統一を図っていった。
- キヤツチフレーズを作成し、最後にロゴデザインを作成した。
- 役場から「羅臼ブランド認証」の話が入り、参加企業の合意のもとで、
役場にロゴを使つてもらうことになりました。
- 最終的には羅臼町の物産振興の共通のブランドへと進んでいった。

活動実績

- ・羅臼町の今後の事業活動としては、「知床らうすブランド認証品」で認証を受けた企業を中心とした「特産品販売振興会」を立ち上げました。
- ・振興会ではみんなで作ったロゴマークのPRや自分たちの商品の販路開拓をチーム一丸となって実施しています。

(例) 商談会や催事の共同出店の例

2016年12月にポールスター札幌にて知床羅臼町魅力発見フェス
タや知床羅臼町ビジネスマッチング商談会、新千歳空港での羅臼
町コーナー、東急百貨店での催事出店、鹿児島の山形屋百貨店
での催事出店etc

今後の方針性

- ・羅臼町の商品としてもっとストーリー性のある商品や羅臼町の文化性の持った商品を作っていくたい、
- ・何社か集まって商談会や物産展などの共同出店コストの削減や羅臼町全体のPRなどを行いたい、
- ・安心安全な商品を道内外にPRすることによる、知床羅臼町の知名度向上と特産品の販売促進を進めることを推進したい、

活動内容報告書

平成30年2月9日

稚内市議会議員 千葉一幸

活動等の名称	アジアと北海道のつきあい方 PART10
期間	平成30年2月3日～平成30年2月4日
実施場所	札幌市
実施経費	<p><u>30000</u>円</p> <p><input type="checkbox"/>調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/>研修費 <input type="checkbox"/>広報費 <input type="checkbox"/>広聴費 <input type="checkbox"/>要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/>会議費 <input type="checkbox"/>資料作成費 <input type="checkbox"/>資料購入費 <input type="checkbox"/>人件費 <input type="checkbox"/>事務所費 <input type="checkbox"/>その他</p>
活動等の概要	<ul style="list-style-type: none">・高校生が思い描く「未来の北海道」作文コンクール・「アジアで活躍する北海道の人・企業」 講師：北洋銀行地域産業支援部 吉田 信昭 氏
備考	

千葉一幸議員 自治アカデミー・アジアと北海道のつきあい方

旅行期間／平成30年2月3日～4日

旅行行程表

月 日	行 程	滞 在 地
2/3	稚内市 → 札幌市	札幌市
2/4	札幌市 → 稚内市	

旅費計算表

項 目	内 訳	金 額
自家用車	稚内 ⇄ 札幌(315km ※高速道路使用なし) 計 630km × 20円	12,600
日 当	@2,700 × 2日	5,400
宿泊料	@12,000 × 1日	12,000
合 計		30,000

アジアと北海道のつきあい方パート10

平成30年2月3日

NPO 日本自治アカデミー主催、グリーンシード21共催にて開催されたアジアと北海道のつきあい方パート10に参加した。高校生が思い描く「未来の北海道」作文コンクール～スピーチコンテストでは、高校生が思い描く将来を聞き入った。スピーチタイトルは各「廃棄物から生まれるもの」「北海道新幹線が運ぶ北海道の未来」「最も若い高齢者が住む北海道」「祖父の背中を背負って」「50年後の未来へ」「グローバル化への転換」「50年後の看護師像」。高校生が思いのだけを自らの言葉で堂々と表現したとても素晴らしい取り組みであり、発表者のこれからにおいても貴重な時間になったのではと感じた。「廃棄物から生まれるもの」では、マチの取り組みを認識出来ている点、自治体の取り組みが高校生にも浸透していることが政治を感じた。「50年後の看護師像」では、自らの看護師との経験が、自身の看護師に望むこと、分析による私見と憧れの看護師像を表現されていた。「アジアで活躍する北海道の人・企業と題し北洋銀行地域産業支援部 吉田信昭副部長が講演。個人の海外勤務体験による講演内容。上海駐在員事務所での3年間勤務による海外からの視点では、2008年に北京オリンピックがあり9月にはリーマンショック上海にも影響。株式市場は一時ピーク時の3分の1に。2010年には上海万博開催。その年9月7日には東シナ海にて中国漁船が日本巡視船に体当たり。2011年3月11日東日本大震災。様々な要因が経済に影響することを肌で感じた勤務体験。海外にて活躍する北海道出身者からメッセージでは、「北海道から一回は外へ出て外からの視点で北海道を見ること、そうすることによる長所・短所を冷静に把握できるようになる」。「自分自身が海外へ出てその日で海外から日本を客観的に見るという経験が大いに役に立つ、百聞は一見に如かず」。両氏とも外に出てからの視点をアドバイスとしている。稚内市に置き換えると、これからマチづくりを担う人材が、一度は市を離れてから客観的に稚内を見て、実際にどのようなマチづくりが効果的なのか、次世代が住む続けたいマチしていく活動を促していけたら理想ではないのかと考えた。今後も効果的なマチづくりになるよう自身としても研鑽していこうと思う。

稚内市議会議員 千葉一幸



フォーラム 「アジアと北海道のつきあい方パート10」

（同時開催）

「作文コンクール・スピーチコンテスト」

（2018年）

- ◆ 主 催 NPO日本自治ACADEMY
- ◆ 共 催 グリーンシード21

(NPO法人 日本自治ACADEMY10周年記念事業)

～高校生が思い描く「未来の北海道」作文コンクール～

スピーチコンテスト【3次審査・最終選考】

(出場者)

◇ 伊藤 紗優(いとう あゆ)さん

下川商業高等学校 2年生

「廃棄物から生まれるもの」

～循環型社会による利益～

◇ 植竹 優喜(うえたけ ゆうき)さん

札幌東高等学校 2年生

「北海道新幹線が運ぶ北海道の未来」

～北海道新幹線の今後の役割と可能性～

◇ 小野 素希(おの もとき)さん

札幌東高等学校 2年生

「最も若い高齢者の住む北海道」

～北海道の自然を活かした道民の健康づくり～

◇ 加藤 巧也(かとう たくや)さん

とわの森三愛高等学校 2年生

「祖父の背中を追って」

～私の守るべきもの～

◇ 北所 昌尚(きたじょ まさなお)さん

札幌東高等学校 2年生

「50年後の北海道へ」

～アイヌの人々へ、輝きを～

◇ 小泉 理咲子(こいすみ りさこ)さん

札幌東高等学校 2年生

「グローバル化への転換」

～外国人の定住促進と農業の再興～

◇ 堀田 優菜(ほりた ゆうな)さん

江陵高等学校 3年生

「50年後の看護師像」

～患者さん思いの現場づくりを目指して～

(出場者についてはアイウエオ順に記載しています)

～フォーラム「アジアと北海道のつきあい方パート10」～

【テーマ】

『アジアで活躍する北海道の人・企業』

講 師

吉田 信昭(よしだ のぶあき)さん
(北洋銀行 地域産業支援部 副部長)

(プロフィール)昭和39年 東京都にて生まれる
昭和63年 北海道拓殖銀行 入行
平成4年 国際部(東京)国際資金為替グループ
平成10年 北洋銀行入行 外国為替推進部調査役
平成16年 北五条通支店次長
平成19年 国際部 上海駐在員事務所長
平成25年 国際部 国際課長
平成28年 北七条支店長
平成29年 現職

◎MEMO◎

〔開催内容〕

●日 時 2018年2月3日(土) 16:00~20:30(15:30受付)

●場 所 札幌すみれホテル
〔札幌市中央区北1条西2丁目 Tel:011-261-5151〕

●資料代 500円

●タイムスケジュール

司会 石川 康弘(日本自治ACADEMY 副理事長)

○16:00 開会挨拶 熊谷 雅幸(日本自治ACADEMY 理事長)

○16:05 日本自治ACADEMY10周年記念事業趣旨説明
谷 一之(作文コンクール実行委員会 委員長)

○16:15~17:15 ~高校生が思い描く「未来の北海道」作文コンクール～
スピーチコンテスト

○17:30~18:30 アジアと北海道のつきあい方パート10
テーマ「アジアで活躍する北海道の人・企業」
(講師) 吉田 檜昭さん
(北洋銀行 地域産業支援部 副部長)

○18:30~18:40 スピーチコンテスト審査発表・表彰式

○18:40 審査結果講評 松本 茂(審査委員会 委員長)

○18:45 閉会挨拶 広瀬 寛人(グリーンシード21 代表)

○19:00~20:30 懇親交流会(立食式、参加費3,500円)

【主催、共催団体のプロフィール】

日本自治ACADEMYは2007年5月、NPO法人として北海道から認証を受け、北海道の各地域で実践してきた地方自治の取組みや制度などについてアジアをはじめ海外などにも広く普及し、交流や連携を通して地域の国際化や地域活性化に寄与することを目指して活動しております。

グリーンシード21は地域の活性化を願う若手市町村議会議員を中心とした仲間が集い、1995年1月に発足し、全道のネットワークをつくりながら、自らの向上と新しい政治文化づくりを目指して活動しております。

北海道の銀行ともに



ANNIVERSARY

アジアで活躍する北海道の人・企業

2018.2.3

北海道とアジアのつきあい方 Part10フォーラム

地域産業支援部

地域産業支援部

北洋銀行

150周年記念

Copyright (c) North Pacific Bank, LTD. All rights reserved.

おことわり

- ・本講演に際しまして、私は、情報・資料の掲載には注意を払っておりますが、掲載された情報の内容の正確性については一切保証しません。
- ・また、掲載された情報・資料を利用、使用するなどの行為に関連して生じたあらゆる損害の理由の如何に問わらず、私および北洋銀行は一切責任を負いません。

● 本日の構成 ●

- 1.私の海外勤務体験 上海駐在員事務所の3年間
- 2.アジアで活躍する北海道人
 - ・台湾台北市 函館市出身 藤川伸生さん
台灣ヤクルト(株) 副総經理
 - ・中國上海市 当麻町出身 板屋美幸さん
維酷公共關係諮詢(上海)有限公司(ベクトルチャイナ)總經理
- 3.北海道と海外
　　海外展開支援と観光産業支援に携わった経験から

私の海外勤務体験 中國上海市

在任期間2007年10月から2010年10月ジェットコースター経済

- 2008年8月北京オリンピック
- 2008年9月リーマンショックが上海にも
上海の欧米企業を襲うリーマン・プラザーズ経営破たんの影響
上海株式市場ピークの1/3の2000ポイントへ、大丈夫なのか
- 2009年お正月映画「非誠勿擾」北海道人気が再燃
- 2009年4月 40兆円とともに帰ってきた外国人
上海万博の準備、マナー改善運動
- 地下鉄、高速道路が急拡大
クレーンが林立、隕せエアコン室外機
- 2010年4月上海万博開幕
- 癪しの「北海道」、道内自治体の上海詣で
- 2010年9月7日東シナ海 中国漁船が日本の巡視船に体当たり
- 2011年3月11日 東日本大震災

台北で活躍する北海道人 藤川伸生さん

函館市出身

氏名 藤川 伸生(ふじかわのぶお)

生年月日 1960年7月19日

出生地 北海道龜田郡戸井町(現函館市)

学歴、職歴

1979年3月 北海道函館工業高校卒業(硬式野球部)

1979年4月 (株)ヤクルト本社入社

1984年3月 北海学園大学経済学部卒業

(中略)

1999年4月 (株)ヤクルト本社 国際部事業推進課

●広東省広州市へ異動

2001年5月 広州益力多乳品有限公司(広州ヤクルト出向 現法立上げ業務)

2003年7月 宅配業務立上げ業務

※テレビ東京「ガイアの夜明け」取材を受ける2003年9月放映

●上海市へ異動

2007年4月 養樂多(中国)投資有限公司(中國ヤクルト出向)

2007年10月 上海益力多乳品有限公司(上海ヤクルト出向)

2010年4月 (株)ヤクルト本社 国際部事業開発課

●台北市へ異動

2014年3月 台湾ヤクルト(株)副総經理 現在に至る

13億人に届ける
中国に挑むシンボル式宅配~

動画
をご覧ください

上海で活躍する北海道人 板屋美幸さん

当麻町出身

当麻町出身。
日系大手航空会社の国際線客室乗務員として働いた
後、日中友好協会の国費留学生として1997年に上海
外国语大学へ留学。
メディアコーディネーターを経て、2005年にPR会社を起
業。

2011年に会社をベクトルチャイナに組織変更し、同社
総經理。

日本企業のPR活動サポートを行う。

中国在住暦20年。
トレンドや人々の生活の変化を観察
することがとても好きで、現在の仕事
は天職。
日々の研究を重ね、良いソリューションを提案すべく毎日努力を欠かさない。

海外で活躍する北海道出身者からのメッセージ

台灣ヤクルト(株) 藤川副総經理

北海道を愛する北海道出身のオヤジとしての意見
北海道の若者には、是非一度海外もそうですが北海道以外へ出て外からの
北視点で北海道を見てもらいたいと思います。
そうすると長所や短所を冷静に把握することができます。
ホテル・ロイヤル・エッカ・タイペイ総支配人の笹谷久雄も栗山町出身です

維酷公共關係諮詢(上海)有限公司(ベクトルチャイナ)板屋總經理

世界そしてアジアの中で、日本人北海道人の私たちが将来どのような役割を
果たしていくべきかを考えるには、自分自身が海外へ出てその眼で海外から
日本を客観的に見るとどういう経験が大きいに役立つと思します。
「百聞は一見に如かず」。
皆さんも海外を通じて、日本そして北海道を見つめてみてください。

C

G



NPO 法人 日本自治 ACADEMY 10周年記念事業

高校生が思い描く「未来の北海道」作文コンクール スピーチコンテスト（最終審査）

最終審査作品

順位	出 場 者	高等学校名	スピーチタイトル
			スピーチサブタイトル
1	伊藤 純優さん	下川商業高等学校 2年生	廃棄物から生まれるもの 循環型社会による利益
2	植竹 優喜さん	札幌東高等学校 2年生	北海道新幹線が運ぶ北海道の未来 北海道新幹線の今後の役割と可能性
3	小野 素希さん	札幌東高等学校 2年生	最も若い高齢者の住む北海道 北海道の自然を活かした道民の健康づくり
4	加藤 巧也さん	とわの森三愛高等学校 2年生	祖父の背中を追って 私の守るべきもの
5	北所 昌尚さん	札幌東高等学校 2年生	50年後の北海道へ アイヌの人々へ、輝きを
6	小泉理咲子さん	札幌東高等学校 2年生	グローバル化への転換 外国人の定住促進と農業の再興
7	堀田 優菜さん	江陵高等学校 3年生	50年後の看護師像 患者さん思いの現場づくりを目指して

(アイウエオ順に記載)



その先の道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



賞名			
氏名	伊藤 紗優（いとう あゆ）さん		
学校名	下川商業高等学校	学年	2学年

タイトル	廃棄物から生まれるもの ～循環型社会による利益～
------	-----------------------------

私たちが住んでいる北海道はとても自然豊かで北海道にしかない素晴らしいものが沢山あると思います。この自然を守り抜いてきたからこそ今の北海道があります。環境の整った北海道だからこそ、環境の原因の一つとなる「廃棄物」について考えていきたいと思います。

私が住んでいる下川町は、環境未来都市に認定されています。環境未来都市とは、環境や高齢化、人類共通の課題に取り組み、先端的プロジェクトを行う地域のことです。下川町で行っているものは、「ゼロエミッション」という取り組みです。この取り組みは、廃棄物ができるだけ出さなく、木材の余分な部分も上手に利用し、廃棄物を減らし資源に再利用するというものです。環境に優しく、商品として売れば町の利益にもなり、PRとして使えばとても効果のある、下川にしかできない良さが詰め込まれた取り組みです。

その例として、「割り箸」が挙げられます。下川町では、先ほども説明したとおり、余った木材などで割り箸を作っています。本来は、捨ててしまう部分を有効に活用し、エコでかつ商品としてもとても価値のあるものです。割り箸は、どんなものでも同じに感じますが、北海道で育てられた国産間伐林を使用していることから、とても上質かつ地域環境保護に適しているものだと分かります。

そしてもう一つは「木炭」です。木炭は、昭和六十年に起きた大洪水により育ててきた森林が大きな被害を受け、廃棄物になる木材を再利用できないかと木炭にしたことが始まりです。現在では木炭を町内の商店などで販売されています、さらに、木炭の煙を冷やす事で搾取できる「木酢液」は、そのまま商品化する以外にも材木に浸透させて燃することで防腐効果のある燻煙材をくるなど様々な使い方で活用されています。木炭を作るだけではなく、そこからとれるものも環境に配慮した商品を生むことができる、そして利益を生むことができる木炭の使い道が何通りもあることで、下川町にとっては、とても重要な大切なものになっています。

こうした取り組みから環境未来都市に認定されるなど、まだまだ幅広く再利用できるものはあると思います。下川町の取り組みについてお話ししましたが、これを北海道全体が自分の市町村で特有の再利用からで生み出すものが、これから北海道の環境を変え、今、問題である過疎化している市町村については、市町村特有の商品としてPRを使い、外部に情報を発信し、移住者を増えるきっかけを作ることができるという事など、まだまだ再利用から生まれるメリットは計り知れないものがあると思います。北海道ならではの「廃棄物を再利用する」という方法を北海道の未来に残していきたいと思います。



賞名			
氏名	植竹 優喜（うえたけ ゆうき）さん		
学校名	札幌東高等学校	学年	2学年

タイトル	北海道新幹線が運ぶ北海道の未来 ～北海道新幹線の今後の役割と可能性～
------	---------------------------------------

2016年3月26日についに北海道新幹線が開業した！多くの道民は待ちに待った新幹線をみて、北の大地を力強く走る姿を想像し、胸を高鳴らせた。道民の夢が叶った瞬間だった。

現在、北海道新幹線は新青森～新函館北斗間を運行している。2031年にはこれが札幌まで延長される予定だ。これにより新青森～札幌間と東京～札幌間は短縮されると予想される。このことはただ単に時間距離がみじかくなっただけでなく本州と北海道がはじめて新幹線で結ばれたことから、北海道にとって主要な産業のひとつである観光業において今までにない、大きな可能性が生まれたと私は考える。

具体的にどのような可能性が秘められているだろうか。今まで、本州の人は北海道に旅行するとき、「飛行機に乗る」か「フェリーに乗る」の二択をあたえられた。このことは肉体的にも精神的にもハードなものである。実際、私は小学3年の頃まで本州に住んでいた。そのとき私たち家族は、毎年、飛行機で母方の祖父母の家がある北海道に行くことが定番になっていた。私にとっては家族団楽しい記憶だけが残っているのだが、母は大変にくたびれた記憶が残っていると後に聞いたことがある。母は広い空港を赤ん坊だった私をおんぶしながら、幼い私の兄を連れて歩くのがとても大変だと私に話してくれた。このような従来の北海道旅行の難点を北海道新幹線は軽いものにしてくれると考えている。

また、他にも新幹線は大きな可能性を持っている。それは北海道がヨーロッパへの玄関口になるというものである。そもそも、北海道新幹線の開通が重要視された大きな要因として全国新幹線整備法第4条に基づく、建設を開始すべき新幹線鉄道の路線を定める基本計画に青森市～札幌市間が追加されたことにある。そしてこの計画により1973年に札幌市～旭川市間も追加された。このことは新幹線が旭川までつながる可能性があることを意味している。ここからは私の夢を語る部分も多いのだが、旭川までつながった新幹線がさらに進化し続け、科学技術の進歩のあと押しもあり、ロシアまでつながったとしよう。人々は北海道新幹線から世界最大の鉄道であるシベリア鉄道に乗り換えることが可能になる。そしたら鉄道に揺られながらモスクワ、サンクトペテルブルク、そしてヨーロッパへ。私たちは北海道新幹線からユーラシア大陸を横断するヨーロッパまでの長旅を楽しむことが可能になる。

私はこの旅が実現したらぜひ体験したい。私だけでなく多くの人がこの体験したいはずだ。その理由に、この旅には大きな夢とロマンが詰まっているからだと私は思う。最後に、人々が一度は経験したいと思うこんな希望の実現の可能性を北海道新幹線は持っている。そして、それこそが北海道新幹線の最大の魅力と私は思う。北海道新幹線が道民だけに限らず、多くの人の夢を乗せて走るとき、私たちのくらす北海道の未来は明るいと私は思う。



賞名			
氏名	小野 素希（おの もとき）さん		
学校名	札幌東高等学校	学年	2学年

タイトル	最も若い高齢者の住む北海道 ～北海道の自然を活かした道民の健康づくり～
------	--

多く人は北海道といえば新鮮な野菜や魚、豊かな自然を思い浮かべるでしょう。観光客もほとんどがこれらの自然を求めて訪れています。しかし現在、この北海道の第1次産業を支えているのは少数のお年寄りであり、彼らにかかる負担は計り知れないほどでしょう。これから50年後、今深刻な少子高齢化や、農産業従事者の高齢化問題、後継ぎ不足問題が果たして改善されているかというと、そうではないと思います。まして少子化により50年後、60代になった私たちの世話をしてくれる人は急減し、機械がさらに発達することで生活習慣病患者が増え、寿命は縮み、人口減少。高齢者の割合が高い北海道にとってこの状況は他県よりいち早く訪れるでしょう。今、北海道はこの高齢者の問題を解決すること非常に重要なことです。

そこで私はこう考えました。高齢者を世話をする人がいないなら、高齢者自身が自ら健康を保ち、世話が必要な場面となるべく作らないようにしたら良いのではないか、と。

北海道は自然がとっても豊かで空気がきれいです。また野菜や魚や肉も新鮮で健康に良いものばかりです。北海道の新鮮な特産物を活かした食生活の改善。ファストフードで食事を済ませがちな人々には特に勧めるべきです。しかし食べ物を活かすにしても作る人がいないならまったく意味がありません。なのでグリーンツーリズムやエコツーリズムを活発に行って、今の若者へ自然と触れ合うことがどれだけ楽しいのか、どれだけ大切なかを伝えるべきだと考えます。また、札幌や旭川などの都市部にもスーパーではなく、市場を設け、生の食べ物を見せて北海道の新鮮な食べ物をより身近に置くのも良いでしょう。これらによって若者たちの第一次産業への関心は高まり、後継ぎ問題が少しは改善されるのではないかと思います。

その他にも、休日には家族でハイキングや海での海水浴、冬にはウィンタースポーツを楽しんで体を動かすことも健康維持にはとても役立つでしょう。これほど健康保ちに必要な環境が整っているのは他県にもあまりありません。これらを活用せずにいるのは大きな損をすることだと思います。

高齢者の増加を抑えることは不可能です。それなら発想を転換して、北海道の自然を活かした道民の健康維持で心身ともに元気で若い高齢者が住む都市を作り上げるのはどうでしょうか。笑顔の絶えない町、元気なおじいちゃん、おばあちゃんと一緒にする楽しい食事の場、考えただけでワクワクしませんか？

「他県と比べてどうしてこんなに北海道の人は活気が溢れ、元気なんだろう」「北海道に行ってみたい」「暮らしたい」そう思ってもらえるようになるのが私の思い描く50年後の故郷、北海道です。



賞名			
氏名	加藤 巧也（かとう たくや）さん		
学校名	とわの森三愛高等学校	学年	2学年

タイトル	祖父の背中を追って ～私の守るべきもの～
------	-------------------------

私はこの北海道の広い大地、青い空の下で死にたい。私は祖父の影響からそう強く思うようになりました。母方の祖父は、もともと東京に住んでおり、個人タクシーを経営していました。あの重く苦しいような空気、狭く息苦しい場所から離れたいと思っていたと聞きました。そして、私の家族に会いに北海道を訪れることが何度かありました。数年に一度しか来れないものの、その目はいつも輝いていました。それから何年も経ち私は、母から祖父、祖母が東京から引っ越してくるとききました。祖父母が引っ越してきたところは私の家から車で十分くらいのところで毎週会うことができるようになりました。

ある時私は祖父に「なぜわざわざこんな田舎にきたの？」とききました。すると祖父は「この北海道の空気と広い大地で死にたい。そのためなら少し不便でも、寒くても構わない。」と言ったのです。ただただかっこよくて、自分勝手だけれど何歳になっても生きる目標をもっている祖父に憧れました。

しかし、その祖父は北海道で五年前ほど過ごして亡くなってしましました。最期は、苦しむことなく静かに逝ったそうです。祖父はどんな自然を感じて逝ったのだろうか。祖父の感じた自然こそ五十年後残っていなければならぬ自然なのではないかと思うようになりました。

将来私は、酪農家という自然に大きく関わる仕事に就きます。つまり私には、自然を守る義務があります。具体的には、草地や糞尿の処理など多くの問題があります。しかし、全ての酪農家はそれをクリアし、僕たちに牛乳を届けてくれています。将来その一員となる者として、責任は大きいです。決して簡単なことではありません。でも、憧れである祖父のような生き方のためなら苦ではありません。どんなに辛くて難しくても、おいしい牛乳を届け、大好きなこの自然を守るには、努力を惜しません。

人はいつか死にます。私には目指すべき最期があります。自分一人の力では、どうにもならない問題だってあります。でも、自分だけでも変わることができないと何も進みません。北海道のこの広い大地と青い空がいつまでも残されるよう、守る人として努力し日々祈り続けます。



賞名			
氏名	北所 昌尚（きたじょ まさなお）さん		
学校名	札幌東高等学校	学年	2 学年

タイトル	50年後の北海道へ ～アイヌの人々へ、輝きを～
------	----------------------------

50年後の北海道は、アイヌの人々がもっと輝く北海道であってほしい。私はアイヌ民族ではないが、そういう北海道を望んでいる。

北海道に住んでいる人々の多くは恐らく、昔、本州から移住してきた人々の子孫だろう。我々の先祖は過去にアイヌの人々に対し、様々な差別的待遇をしてきた。不当な貿易やイヨマンテなどの文化の否定など、調べれば多数、その非人道的行為を認知することができるだろう。北海道は、元々アイヌ民族のものだったのだ。だから、かつての先祖がでかした過ちを詫びると共に、日々に至るまで、共存させてもらえたことに感謝するため、50年後の北海道はアイヌの人々が輝く北海道であってほしいと思うのだ。

では、その為に具体的に何をすればよいのか、ということを2つほど書き記していくこうと思う。

1つ目の案は、アイヌ民族感謝の日を北海道で制定することだ。その日には、様々な市区町村でアイヌについてのイベント（例えばアイヌの伝統料理博覧会、アイヌ民族道具展覧会、等）を行ったりし、アイヌ民族への理解を深めるのだ。そういった日が制定されれば、テレビで放送などもされて、毎年最低でも一回は、多くの人がアイヌについて触れる機会を得られるのだ。別に、祝日として制定する訳ではないので簡単だと思う。

2つ目の案は、アイヌ語の勉強を学校の授業に取り入れることだ。これを実現するのはかなりの難度があると思う。しかし、もしそれを実現できたとしたら、それはとてもすばらしいことだ。アイヌ語を勉強したところで、話すことはほぼゼロだし、入試にも出ないんだから、わざわざ授業で扱う必要は無いといった意見も恐らく出るだろう。私は会話できるようになろうだの入試にも出そうだのと言っているわけではない。私が伝えたいことは、あくまで文化の保存が目的だ。文明はいつか廃れ、消え去っていく。それは歴史が教えてくれているだろう。マヤ文明やメソポタミア文明などがその例だ。文明が無くなることは文化が無くなることと同義であると思う。50年後の北海道でアイヌ文化がこの文明たちと同じ道を辿ることが無いよう、最も大事な言葉の消失は避けなければならない。だから、アイヌ文化を絶やさないために、学校でアイヌ語の授業をしたほうがいいと思うのだ。

50年後、というと、今の私は16歳なので66歳になっている。これは個人的な話であるが、私は恐らく早死にすると思っているので、もしかしたらその頃にはもうこの世にいないかもしれない。しかし、もし生きていで、この目でアイヌの文化が輝く北海道を見ることができたなら、これほど幸せなことは無いだろう。50年越しの夢が叶っているのだから。死んでいたとしても、私の夢が叶っていることを、切に願う。



賞名			
氏名	小泉 理咲子（こいづみ りさこ）さん		
学校名	札幌東高等学校	学年	2学年

タイトル	グローバル化への転換 ～外国人の定住促進と農業の再興～
------	--------------------------------

北海道は150年の歴史の中で、農業によって発展してきたと言っても過言ではない。家の近くには田んぼや畑があり、家庭菜園は当たり前。北海道の強みと言えば、やはり農業なのである。食料自給率が低い都府県に安定した食料を供給してきた北海道は、日本全体の発展に貢献してきたとも言えよう。

しかし現在、北海道では農業従事者の高齢化および後継ぎ不足により、その人口が減少している、まことに、北海道の強みの一つが徐々に失われようとしているのだ。そこで私は、農業をはじめとした過去150年間北海道をここまで成長させてくれた省みも大切であるが、北海道には新たな強みが必要であると考える。

私が考えるに、これから北海道を左右するのは、やはり外国人である。北海道は日本国内でも観光地として人気であるが、外国人観光客からの人気も非常に高い。特に札幌やニセコは常に外国人であふれかえっている。平日に札幌の大通りを歩けば、聞こえてくるのは日本語ではなく中国語や英語が多いことからもわかるだろう。それもそのはず、日本では人口減少が著しい（もちろん北海道も例外でない）が、世界的に見ると数年前に世界の人口が70億人を突破したことからわかるように、人口は増え続けている。彼らを北海道に招くことが出来れば、北海道は更なる発展が見込めるはずだ。

すでに北海道では、店頭に外国語対応可能な店員を置いたり、多言語対応可能な電子案内板があったり、外国人観光客が多く来る街には免税店が多く見られたりと、観光客への対応は非常に手厚い。その対応に満足した外国人に次に踏ませたいステップは北海道への定住だ。現在も前述のニセコにはオーストラリア人をはじめとした多数の外国人定住者がおり、そこで日本人と結婚し家庭を持っている方も大勢いる。私は北海道全体をこのようにしたいのだ。

いま日本企業では、数か国語での会話が可能で、国際的な視点を持つグローバルな人材が非常に求められている。国際教養が売りの有名大学の就職率はほぼ100%だ。ニセコのように両親のどちらかが外国人であったり、身近に外国人がいたりと、幼年期から日本と外国との国際的な違いを見いだせる環境が北海道全体に与えられれば、北海道はグローバル化が進み経済的な発展が見込めうえ、外国の方もより北海道を訪れやすくなるのではないだろうか。

グローバル化ももちろんだが、冒頭で述べた農業従事者不足も解消しなくてはならない。その問題も外国人を積極的に北海道へ招き入れることで同時に解消されるのではないだろうか。海外にも優れた農業技術を持つ方は大勢いる。そのような外国人を北海道に定住させることが出来たらまさに一石二鳥なのだ。

200周年を迎える北海道には国際的な考えが養われた若者や子どもたちが多くいることを願う。



賞名			
氏名	堀田 優菜（ほりた ゆうな）さん		
学校名	江陵高等学校	学年	3学年

タイトル	50年後の看護師像 ～患者さん思いの現場づくりを目指して～
------	----------------------------------

「おばあちゃんは、今一生懸命頑張っているから大丈夫。」私はある看護師の方が言ったこの言葉ひとつにとても救われました。

私が幼いころ、私の目の前で大好きな祖母が脳幹出血で倒れてしまいました。その時、目の前で祖母が倒れたという衝撃と祖母に何もしてあげられない自分の無力さに私はただ泣くことしかできませんでした。治療室に運ばれていく祖母の姿を見て不安に押しつぶされそうな私たち家族に励ましの言葉をかけてくれた看護師の方を見て、強い憧れを抱き、現在、看護師を目指しています。

私が幼いころ、患者さんだけではなくご家族にも寄り添い、患者さんにより良いケアを提供することができる素晴らしい人というイメージを看護師に持っていました。ですが、福祉の勉強や施設見学、看護体験に参加する中で、北海道は東京に次いで病院の数が多く、人口も八番目ということに対して、病院・施設の看護師の数が全国で六番目の少なさであり、全国の主要都道府県とで看護師の数を比較すれば、出産や勤務の過酷さを理由に離職する看護師が相次ぎ、看護師数ワーストワンという統計結果が出ていることを知りました。また、実際に病院の施設見学をした際に、看護師の人手不足が原因で医療業務に追われ患者さんとの関わりが少なくなっているという現実を知りました。日本全国的にもその過酷労働から、新人看護師が業務に追われ患者さんやご家族との関わりどころか知識や技量を磨くことができない、また患者さんを助けるために頑張っている看護師が過酷労働という原因で死んでしまうという現状が問題視されています。

これらのことから私は、人員不足の解消を図るために看護職の増員も必要ですが、資格を持てながら看護師ではない潜在看護師が看護職に復帰することが必要とされるのではないかと考えます。潜在看護師が増加する要因として出産・育児による離職からの業界復帰が上げられます。そのため潜在看護師対策として、子育て支援に力を入れて取り組むべきだと考えます。男女ともに家庭を持つ看護師が働きやすいよう施設内外に提携した託児所を作る、看護師間でも育児経験がある看護師が子育てについての相談や助言をし、働きながら育児をしやすい環境を作るなど子育て支援が必要だと考えます。

潜在看護師は、現場での知識や経験がある場合が多く、一から指導や現場経験の必要な新人看護師とは違い、復帰後すぐに戦力となることができます。職場は指導に人員を割かずして看護師を増員することができます。業務の分担が可能になります。また、業務に余裕が生まれることで新人看護師の育成にも力が入るという好循環が生まれていくと考えます。

最後に、50年後の看護師が私の憧れた看護師の方のように、より良いケアの提供と患者さんやご家族に寄り添うことを両立しながら働いていることを望んでいます。